基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校では，高等専門学校設置基準（基準３－１－①－１）に基づく一般科目教員及び専門科目教員を配置しており，一般科目においては，観点１－１－①で述べた教育目標を達成するため，一般科目教員を専任教員24名，非常勤講師29名を配置している(資料３－１－①－２)。一般科目においては修士以上の学位取得率が８割に達しており，それぞれの専門分野を考慮して適切な授業科目を担当している（資料３－１－①－３）。また，実践的技術者を育成するために，専門の基礎となる科目である数学，理科およびコミュニケーション能力を育成する科目である英語と国語に重点を置く配慮をし，教育目標を効果的に達成しうる配置にしている。

資料３－１－①－１　　高等専門学校設置基準（抜粋）

＊＊＊（中略）＊＊＊

（教員組織）

第六条　高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。

２　教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。

＊＊＊（中略）＊＊＊

四　入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数

＊＊＊（中略）＊＊＊

３　教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。

＊＊＊（中略）＊＊＊

第七条　高等専門学校は、演習、実験、実習又は実技を伴う授業科目については、なるべく助手に補助させるものとする。

第八条　専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならない。

（出典　高等専門学校設置基準）

資料３－１－①－２

一般科目 科目別教員数一覧

人文系	専任	非常勤	合計	理数系	専任	非常勤	合計
国語	3	4	7	数学	5	5	10
社会	2	4	6	物理	2	0	2
倫理	0	1	1	化学	1	1	2
スポーツ科学	2	3	5	生物	1	0	1
英語	5	4	9	応用数学	1	4	5
ロシア語	0	1	1	応用物理	2	0	2
日本語	0	1	1				
ドイツ語	0	1	1				
合計	12	19	31		12	10	22

※教員交流制度による派遣教員（一般（人文）　准教授1）は除く
※非常勤講師は，平成１９年4月１２日付け採用

（出典　学生課資料）

資料３－１－①－３

一般科目教員の専門分野と準学士課程の担当授業表

科目名	職名	氏　名	専門分野	担当授業科目		学位
国語	教授	松代　周平	日本近代文学	国語	国語演習	修士(教育学)
			国語教育	近代文学		
	准教授	泊　　功	漢文教育	国語	国語演習	修士(教育学)
			比較文化･比較文学	中国語		
		鳴海　雅哉	中国古典文学	国語	国語演習	修士(教育学)
			国語教育	文章作成法	古典文学	
社会	教授	四宮　宏貴	東洋史	歴史II	ドイツ語	文学修士
			南アジア地域研究	政治と経済		
		中村　和之	東洋史	歴史I	人間と文明II	学士
			歴史教育	人間と文明III		
スポーツ科学	教授	浦田　　清	スポーツ心理学, コーチ学	スポーツ科学	スポーツ科学概論	体育学修士
	准教授	清野　國安	体育方法学	スポーツ科学		学士
英語	教授	奥崎　真理子	英語教育	英語表現	英語演習	M.A. (in Teaching)
			異文化理解教育			
		竹村　雅史	英語教育学	英語講読		教育学修士
	准教授	田畑　緩己	英語教育, 英語英文学	基礎英文法	英語構文	学士
		高橋　眞規子	英語教育学	英語講読	英語演習	M.A. (in Telec-ommunication)
			テレコミュニケーション			
		臼田　悦之	英語教育学	英語表現	英語コミュニケーションI	修士(教育学)
数学	教授	中島　正美	多変量解析	基礎数学I	微分積分	学士
				代数幾何		
		竹花　靖彦	数学 (環論, 捩れ理論, 整数論)	基礎数学I	微分積分	理学修士
				応用数学	数学特講	
	准教授	佐藤　友信	流体工学	基礎数学I	微分積分	工学修士
				代数幾何		
		新田　一夫	代数学 数理論理学	基礎数学I	微分積分	理学修士
				代数幾何	数学演習A	
				応用数学		
		北見　　健	幾何学	基礎数学I	微分積分	修士(理学)
				代数幾何	数学演習B	
				応用数学		
応用数学	准教授	菅　　仁志	素粒子論	在外研究H19.4～H20.3		博士 (理学)
物理	教授	長澤　修一	物性物理学理論	物理	情報処理基礎	博士(工学)
			理論化学物理	応用物理		
	准教授	宮崎　真長	物性理論	物理		博士(理学)
応用物理	教授	佐藤　博保	金属物性論, 強誘電体工学	応用物理	応用物理 II	工学博士
				応用数学	応用数学 II	
				応用物理 I	応用数学 I	
	准教授	田淵　正幸	金属物性論	応用物理	応用物理 II	博士 (工学)
化学	教授	福島　　純	無機材料化学	化学I	化学III	工学博士
生物	教授	入江　俊明	動物生理学	生命科学概論	基礎生物学	博士(理学)
			比較生化学	環境生物学	情報処理基礎	
				化学II	化学III	

一般科目非常勤教員の専門分野と準学士課程の担当授業表

科目名	氏　名	担当授業科目	専門分野 または教員免許	学位	教育機関 勤務年数
国語	内藤　一志	国語	古典学, 国語教育	教育学修士	２３年
	松田　数之	国語	高校2種国語	学士	３１年
	菅原　善直	国語	高校1級	学士	４１年
	佐藤　正行	国語	専修国語	学士	３６年
社会	竹花　和晴	人間と文明I	考古学	理学博士	１３年
	熊谷　雅次	地理I、地理II	高校1種地歴･公民	理学修士	２６年
	乳井　英雄	現代社会	高校2級社会	学術修士	２０年
	渡邊　英郎	現代社会	経済学	学士	５４年
倫理	中川　清吾	倫理学	哲学	文学修士	３９年
数学	伊藤　義浩	基礎数学II	高校2種数学	学士	３７年
	川上　英巳	基礎数学II	専修数学	学士	２６年
	佐藤　隆	基礎数学II, 代数･幾何	数学教育	学士	４２年
	渡辺　俊克	基礎数学II、代数･幾何	高校1級数学	学士	４０年
	松山　和雄	基礎数学II	システム工学	準学士	４０年
化学	清水　崇	化学II	触媒工学,セラミック工学	工学博士	４１年
スポーツ科学	今井　正夫	スポーツ科学	高校2級保健体育	学士	４２年
	長谷川軍司	スポーツ科学	高校1級保健体育	学士	４１年
	水野　勝敏	スポーツ科学	高校1級保健体育	学士	２７年
英語	岡田　恒雄	英語講読 英語特講A, 英語特講B	高校2級英語	学士	４５年
	天野　恒敬	英語演習	高校2級英語	学士	４２年
	上山　恭男	英語コミュニケーションIII	英語学、英語教育	文学修士	２９年
	シマダ･レナーテ	英語コミュニケーションII	英語教育		３０年
ドイツ語	広瀬　龍太	ドイツ語	歴史学	文学修士	４２年
日本語	山崎　暁子	日本語、日本語事情	日本語教師養成講座修了	準学士	２２年
ロシア語	ロマン　イリイン	ロシア語	ロシア語教育	学士	6年
応用数学	上見　練太郎	応用数学I, 応用数学	偏微分方程式論	理学博士	３８年
	高村　博之	応用数学I	偏微分方程式論	博士(理学)	１４年
	長崎　健	応用数学	コンピュータビジョン	博士(工学)	6年
	木村　暢夫	応用数学II	水産情報科学	水産学博士	２０年

（出典　平成19年度 総務課資料，学校要覧）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，それぞれの専門分野を考慮して配置している。また，実践的技術者を育成するために，専門の基礎となる科目である数学，理科およびコミュニケーション能力を育成する科目である国語，英語に重点を置く配慮をしており，教育目標を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専門科目においては，観点１－１－①で述べた教育目標を達成するため，専任教員55名（助手1名を除く），再雇用教員1名，非常勤講師１名を配置して(資料３－１－②－１)，それぞれの専門分野を考慮し，適切な授業科目を担当している（資料３－１－②－２）。また，修士または博士の学位を取得した教員を中心とし，深く専門的知識を教授できる教育体制をとっている。

専門５学科の専任教員の中で，博士の学位取得者が占める割合は７割を超えている。また，民間企業で技術者としての２年以上の実務経験を持つ者が21名（専門学科教員の３割以上，各専門学科３名以上），さらに技術士資格者が２名，技術士補資格者が１名おり，実務経験に基づいた実践的な教育を実施できる人的資源がある（資料３－１－②－３）。なお，専門科目を担当する専任教員の教授及び准教授の人数は47名であり，高等専門学校設置基準を満たしている。

資料３－１－②－１

専門学科教員数一覧

	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合　計
教授	5	4	4	7	3	23
准教授	4	6	5	3	6	24
講師	0	0	0	0	0	0
助教	1	2	2	1	2	8
助手	0	0	0	1	0	1
再雇用教員（教授）	1	0	0	0	0	1
非常勤講師	0	0	0	0	1	1
１９年度合計	11	12	11	12	12	58

平成１９年４月１日現在
※教員交流制度による受入教員（電気電子工学科　准教授1）は含む
※非常勤講師は，平成１９年４月１２日付け採用

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－２　専門学科教員の準学士課程および専攻科課程の担当授業一覧

※ 担当授業については，専攻科における実験系科目（特別実験および総合演習）は除いている。

機械工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	祐延　悟	真空工学	機械工学概論	23	有	工学博士
			機械創造演習III			
			機械工学実験(4年)			
			電気工学概論(5年)			
			機械英語演習			
			情報処理基礎			
			機械創造演習II			
			電気工学概論(4年)			
			課題研究			
			卒業研究			
			真空工学(S2)			
	中川幸二	流体力学 流体機械	機械工学概論	30	有	博士(工学)
			機械要素設計法			
			課題研究			
			卒業研究			
			流体力学II			
			流体力学特論(S1)			
			機械工作実習			
			計測工学			
			機械工学実験(5年)			
			機械英語演習			
			機械工学通論(SK1)			
			熱流体力学(S2)			
	切明隆司	内燃機関 設計工学	機械工学概論	20.5		
			機械設計製図(4年)			
			エネルギ変換工学			
			卒業研究			
			工学倫理			
			熱力学			
			課題研究			
			機械工学実験(5年)			
			機械英語演習			
			内燃機関			
	浜　克己	知能機械工学 システム工学	機械工学概論	3	有	博士(工学)
			機械創造演習III			
			情報処理演習(4年)			
			自動制御			
			卒業研究			
			システム工学特論(SK1)			
			機械創造演習II			
			機構学			
			課題研究			
			機械工学実験(5年)			
			機械英語演習			
			知能機械(S2)			
	山田　誠	精密加工学 設計工学	機械工作実習	4		博士(工学)
			情報処理演習(3年)			
			機械システム設計法			
			課題研究			
			卒業研究			
			機械工作法特論			
			機械創造演習II			
			機械創造演習III			
			機械工学実験(4年)			
			伝熱工学			
			機械英語演習			
			機械工学通論(SK1)			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授 (再雇用)	秋葉機四郎	機械力学 内燃機関	機械工学概論	31		博士(工学) (技術士)
			課題研究			
			卒業研究			
			工学倫理			
			工業力学			
			機械力学			
			機械英語演習			
			振動工学(S1)			
准教授	本村真治	流体工学	機械工学概論	5		
			機械設計製図(3年)			
			流体力学I			
			課題研究			
			機械工学実験(5年)			
			機械英語演習			
			数値解析			
			機械創造演習II			
			機械創造演習III			
			機械工学総合演習			
			流体工学			
			卒業研究			
			流体機械			
	古俣　和直	材料学 腐食防食工学	機械創造演習I		有	博士(工学)
			材料学(3年)			
			機械工学総合演習			
			学外実習			
			卒業研究			
			材料創製プロセス工学			
			材料学(2年)			
			機械工学実験(4年)			
			課題研究			
			機械工学演習II			
			機械英語演習			
			腐食防食工学(SK1)			
	近藤　司	生産工学 精密加工学 形状処理工学	機械工学概論		有	博士(工学)
			機械工作法			
			機械工学実験(4年)			
			課題研究			
			機械英語演習			
			生産プロセス工学(S1)			
			機械工作法			
			機械工作実習			
			機械工学総合演習			
			卒業研究			
			切削工学			
	川上　健作	バイオメカニクス 材料力学	機械工学概論		有	博士(工学)
			材料力学(3年)			
			機械工学実験(4年)			
			卒業研究			
			生体材料学			
			バイオメカニクス(S2)			
			機械設計製図			
			材料力学(4年)			
			機械システム工学			
			機械英語演習			
			機械工学通論(SK1)			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
助教	中村　尚彦	ロボット工学	機械工学概論		有	博士(工学)
			情報処理演習(2年)			
			課題研究			
			機械工学実験(5年)			
			機械英語演習			
			機械創造演習I			
			機械工学総合演習			
			論理回路			
			卒業研究			

備考　(S1):生産システム工学専攻1年, (S2):同2年, (SK1):専攻1年専門共通科目, (SK2):同2年

電気電子工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	木村　彰	制御工学	エレクトロニクス入門	30	有	博士(情報科学)
			制御工学			
			工業倫理			
			アドバンスト制御工学(S2)			
			電気回路IV			
			工学応用実験I			
			卒業研究			
	石井　良博	電気磁気学 磁性材料工学	エレクトロニクス入門		有	工学博士
			電気磁気学演習			
			工学応用実験II			
			電気磁気学特論(S1)			
			電気磁気学I			
			高周波工学			
			卒業研究			
			磁性材料工学(S2)			
	森田　孝	電磁界解析 電気電子回路	エレクトロニクス入門	9	有	博士(工学)
			電気回路演習I			
			創造実験II			
			電気工学通論(SK1)			
			シミュレーション工学(SK2)			
			電気回路I			
			工学基礎実験II			
			電磁波工学			
			シミュレーション工学(SK1)			
			電磁波工学特論(S1)			
	高田　明雄	電子工学 電子回路	エレクトロニクス入門		有	博士(工学)
			電子回路II			
			工学応用実験II			
			電子回路特論(S1)			
			電子回路I			
			電子回路III			
			卒業研究			
准教授	藤川　一	高電圧工学	エレクトロニクス入門			
			工学応用実験I			
			パワーエレクトロニクス			
			デジタル回路II			
			計測回路工学			
			卒業研究			
	松橋　信明	電子工学	エレクトロニクス入門			博士(工学)
			創造実験II			
			電子材料工学			
			電気工学通論(SK1)			
			工学基礎実験II			
			科学技術英語			
			工学応用実験I			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
准教授	山田　一雅	金属物理	エレクトロニクス入門	3	有	博士(工学)
			創造実験I			
			電子デバイス工学			
			卒業研究			
			固体電子工学(S2)			
			工学基礎実験I			
			電子工学			
			コンピュータ工学			
			固体電子工学(S1)			
	柳谷　俊一	半導体材料工学	エレクトロニクス入門		有	博士(工学)
			電気回路II			
			工学基礎実験I			
			電気回路III			
			情報伝送工学			
			半導体デバイス工学(S2)			
			創造デザイン			
			電気回路演習II			
			創造実験I			
			電子デバイス工学			
			卒業研究			
	森谷　健二	生体工学 生理機能工学	エレクトロニクス入門		有	博士(工学)
			プログラミングII			
			創造実験I			
			計測工学I			
			信号処理I			
			電気電子工学演習I			
			卒業研究			
			プログラミングI			
			工学基礎実験I			
			プログラミングIII			
			計測工学II			
			学外実習			
			信号処理II			
			計測システム特論(S2)			
	三島　裕樹	電力ｼｽﾃﾑ工学	エレクトロニクス入門		有	博士(工学)
			工学基礎実験II			
			エネルギー工学			
			システム工学			
			電力システム工学(S2)			
			電気回路演習II			
			創造実験II			
			電気機器			
			卒業研究			
助教	山村　豊	情報処理	エレクトロニクス入門			修士
			創造デザイン			
			プログラミングII			
			創造実験II			
			卒業研究			
			プログラミングI			
			デジタル回路I			
			プログラミングIII			
			工学応用実験I			
	湊　賢一	半導体材料工学 固体物理	エレクトロニクス入門			博士(工学)
			工学基礎実験I			
			電気磁気学II			
			工学応用実験II			
			創造デザイン			
			創造実験I			
			通信システム			
			卒業研究			

備考　(S1):生産システム工学専攻1年，(S2):同2年，(SK1):専攻1年専門共通科目，(SK2):同2年

情報工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	國分　進	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬ 教育工学	情報工学序説			
			情報工学実験I			
			論理回路			
			論理設計			
			情報工学実験IV			
			コンピュータ･アーキテクチャII			
			コンピュータ･アーキテクチャI			
			情報創造実験II			
			情報創造実験I			
			情報工学実験II			
			情報工学実験III			
			卒業研究			
	太刀川　寛	ソフトウェア工学	情報工学序説	19		工学修士
			プログラミング演習(1年)			
			プログラミング演習(2年)			
			情報創造実験I			
			情報工学実験III			
			ソフトウェア工学			
			情報工学実験IV			
			プログラミングI			
			プログラミングII			
			情報工学実験I			
			情報工学実験II			
			情報創造実験II			
			技術者倫理			
			卒業研究			
	先名　健一	電磁波理論 重力理論	情報創造実験I	1	有	博士(工学)
			情報数学II			
			情報理論			
			符号理論			
			卒業研究			
			数値解析論(SK2)			
			情報工学実験II			
			情報創造実験II			
			情報工学実験IV			
			数理計画法			
			応用解析学I(SK1)			
	藤原　孝洋	情報通信システム 画像情報処理	情報英語演習	24.8	有	博士(工学)
			プログラミング基礎(SK1)			
			ネットワーク特論(S2)			
			情報工学通論(SK1)			
			画像処理工学(S1)			
准教授	佐藤　恵一	教育工学	情報工学序説			工学修士
			情報創造実験I			
			情報工学実験II			
			情報ネットワーク			
			情報創造実験II			
			卒業研究			
			情報工学実験I			
			デジタル通信			
			オペレーティングシステム			
			情報工学実験III			
			情報工学実験IV			
			情報処理基礎(1年)			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
准教授	河合　博之	グラフ理論	情報創造実験I	1	有	博士(工学)
			情報工学実験II			
			情報創造実験II			
			コンパイラ			
			卒業研究			
			情報数学I			
			オートマトン			
			数理論理学			
			情報工学実験IV			
	高橋　直樹	プログラミング言語論 データベース	基礎電子工学I	7		工学修士
			情報工学実験I			
			プログラミング言語論			
			データベース			
			卒業研究			
			基礎電子工学II			
			情報創造実験I			
			情報創造実験II			
			情報工学実験II			
	後藤　等	量子エレクトロニクス	情報工学序説			修士(工学)
			プログラミング演習(2年)			
			プログラミングIII			
			プログラミング演習(3年)			
			情報創造実験II			
			卒業研究			
			プログラミングII			
			情報創造実験I			
			アルゴリズム			
			情報工学実験II			
			学外実習			
			情報処理基礎(1年)			
	東海林智也	多変量解析 信号処理	情報工学実験I		有	博士(工学)
			情報工学実験II			
			プログラミング演習(4年)			
			情報創造実験II			
			卒業研究			
			情報創造実験I			
			信号処理			
			情報工学実験III			
			画像情報処理			
			ディジタル信号処理(S2)			
助教	小山　慎哉	ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀｰﾌｪｲｽ技	情報創造実験I		有	博士(工学)
			プログラミング演習(4年)			
			ヒューマンインタフェース			
			卒業研究			
			情報工学実験II			
			情報工学実験III			
			情報工学実験IV			
	今野　慎介	生体工学	内地研究(北海道大学)	2		修士(工学)

備考　(S1):生産システム工学専攻1年，(S2):同2年，(SK1):専攻1年専門共通科目，(SK2):同2年

物質工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	水上　正勝	地球科学 資源地質	分析化学		有	理学博士
			物理化学I			
			機器分析			
			卒業研究			
			物質工学実験I:無機分析			
			物質工学創造実験			
			地球環境科学			
			資源地球化学(ＳＫ1)			
	蔵多　一哉	有機化学	有機化学I		有	理学博士
			物質工学創造実験			
			卒業研究			
			有機化学II			
			機器分析			
			構造有機化学(S1)			
	日野　誠	触媒化学	物質工学実験II:物理化学		有	理学博士
			物質工学創造実験			
			物理化学III			
			エネルギー工学			
			物質工学通論(SK1)			
			物理化学II			
			機器分析			
			触媒化学			
			卒業研究			
			触媒工学(K2)			
	鹿野　弘二	無機材料	物質工学入門	25	有	工学博士
			無機工業化学			
			金属材料工学			
			反応工学			
			物質工学通論(SK1)			
			物質工学創造演習			
			物質工学総合演習			
			セラミックス特論			
			卒業研究			
			新素材論I(K1)			
	小原　寿幸	応用微生物学	物質工学創造演習		有	工学博士
			応用物質工学実験II			
			卒業研究			
			分子生物学			
			リサイクル工学(K2)			
			生物工学入門			
			有機工業化学			
			生物化学			
			環境微生物工学(SK2)			
	小林　淳哉	触媒化学	無機化学	2	有	博士(工学)
			材料工学入門			
			応用物質工学実験I			
			無機材料工学			
			物質工学通論(SK1)			
			リサイクル工学(K2)			
			物質工学創造演習			
			機器分析			
			化学工学演習			
			卒業研究			
			触媒工学(K2)			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	上野　孝	生物資源工学	設計製図	2	有	博士(農学)
			物質工学創造実験			
			応用物質工学実験II			
			環境生物学			
			微生物培養工学(K2)			
			技術論文技法			
			化学英語			
			生物資源工学			
			卒業研究			
			リサイクル工学(K2)			
准教授	長尾　輝夫	計算化学	物質工学創造演習			
			化学工業I			
			化学工業II			
			計算科学			
			情報処理I			
			情報処理II			
			応用物質工学実験I			
			卒業研究			
	伊藤　穂高	高分子化学	化学演習	1	有	博士(工学)
			機器分析			
			学外実習			
			応用物質工学実験II			
			物質工学通論(SK1)			
			物質工学創造演習			
			環境工学(4年)			
			環境工学(5年)			
			卒業研究			
			新素材論II(K1)			
	清野　晃之	高分子化学	基礎化学実験		有	博士(工学)
			高分子化学			
			有機材料工学			
			応用物質工学実験I			
			卒業研究			
			物質工学創造演習			
			機器分析			
			有機材料工学			
			高分子物性工学			
			リサイクル工学(K2)			
助教	田中　孝	水環境学	基礎有機化学演習	2	有	
			物質工学実験III:有機化学			
			応用物質工学実験I			
			卒業研究			
			物質工学実験II:物理化学			
			物質工学創造実験			
			環境汚染分析法			

備考　(K1):環境システム工学専攻1年, (K2):同2年, (SK1):専攻1年専門共通科目, (SK2):同2年

環境都市工学科

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
教授	韮沢　憲吉	景観工学 構造デザイン	図学		有	博士(工学)
			創造デザイン演習			
			創造設計政策演習			
			環境都市工学実験(5年)			
			数値解析学			
			景観工学			
			都市工学(SK2)			
			環境都市工学通論			
			技術と社会			
			専門英語演習			
			卒業研究			
			建設材料学			
			景観デザイン設計(SK1)			
	大久保孝樹	環境工学 衛生工学	環境都市工学通論		有	博士(工学)
			技術と社会			
			水理学(4年)			
			専門英語演習			
			卒業研究			
			環境工学			
			環境マネジメント(SK1)			
			水理学(2年)			
			情報処理演習II			
			衛生工学			
			環境都市工学実験(5年)			
			環境保全			
			土木工学通論(SK1)			
			環境物質移動論(K2)			
	澤村　秀治	コンクリート工学	環境都市工学通論	15	有	工学修士 (技術士)
			コンクリート構造学(3年)			
			コンクリート構造学(4年)			
			環境都市工学実験(4年)			
			施工技術			
			技術者倫理(SK1)			
			コンクリート工学特論(K1)			
			コンクリート構造学(2年)			
			技術と社会			
			構造設計製図I			
			専門英語演習			
			卒業研究			
			土木工学通論(SK1)			
准教授	藤原　　隆	交通工学	環境都市工学通論			
			道路工学			
			施工管理			
			環境都市工学実験(5年)			
			計画数理			
			技術と社会			
			専門英語演習			
			交通工学			
			情報処理基礎			
			卒業研究			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	特別研究担当の有無	学位
准教授	渡邊　　力	構造力学	構造力学(1年)	3	有	博士(工学)
			構造力学(2年)			
			技術と社会			
			専門英語演習			
			弾性力学(K1)			
			土木工学通論(SK1)			
			構造力学(3年)			
			構造力学(4年)			
			卒業研究			
			構造解析学(K2)			
	平沢　秀之	橋梁工学	土木工学通論(SK1)		有	博士(工学)
			技術と社会			
			創造設計政策演習			
			構造工学(5年)			
			構造設計製図II			
			卒業研究			
			建設CAD			
			構造工学(4年)			
			学外実習			
			専門英語演習			
			環境都市工学実験(5年)			
			耐震工学			
			構造設計特論(K2)			
	川口　貴之	地盤工学	測量学･測量学実習(1年)		有	博士(工学)
			土質工学(3年)			
			土質工学(4年)			
			専門英語演習			
			卒業研究			
			地盤物性学(S1)			
			環境都市工学通論			
			技術と社会			
			環境都市工学実験(4年)			
			施工技術			
			地盤工学			
	佐々木恵一	土地利用計画 都市計画	環境都市工学通論		有	博士(工学)
			技術と社会			
			測量学･測量学実習(4年)			
			専門英語演習			
			地域計画			
			土木工学通論(S1)			
			土木計画学			
			測量学･測量学実習(1年)			
			都市計画			
			卒業研究			
			計測工学			
	宮武　　誠	水文学	環境都市工学通論	3	有	博士(工学) 技術士補
			水文学			
			技術と社会			
			環境都市工学実験(5年)			
			流体力学			
			土木工学通論(SK1)			
			水理学(3年)			
			水資源工学			
			専門英語演習			
			卒業研究			
			防災工学			
			流域環境特論(K2)			

職名	氏名	専門分野	担当授業	企業経験年数	専攻科特別研究担当の有無	学位
助教	小玉　齊明	岩盤力学	応用地学		有	博士(工学)
			創造デザイン演習			
			測量学･測量学実習(3年)			
			環境都市工学実験(4年)			
			卒業研究			
			環境都市工学通論			
			情報処理演習Ⅰ(3年)			
			技術と社会			
			専門英語演習			
			土木工学通論(SK1)			
	橋本紳一郎	コンクリート工学	環境都市工学通論			博士(工学)
			測量学･測量学実習(2年)			
			創造デザイン演習			
			測量学･測量学実習(4年)			
			専門英語演習			
			土木工学通論(SK1)			
			情報処理演習Ⅰ(1年)			
			コンクリート工学			
			技術と社会			
			環境都市工学実験(4年)			
			卒業研究			
			リサイクル工学(S2)			
非常勤	松田　敏宏	砕石業(実務経験)	火薬学･同実験			甲種火薬取扱責任者

備考　(K1):環境システム工学専攻1年，(K2):同2年，SK1):専攻1年専門共通科目，(SK2):同2年

（出典　学校要覧，平成 18,19 年度 授業計画書）

資料３－１－②－３

各学科の学位取得者と企業経験者　　平成19年4月1日現在

学科	教員数	学位				企業経験者数
		博士	修士	学士	準学士	
機械工学科	10	8	0	0	2	6
電気電子工学科	12	10	1	1	0	3
情報工学科	11	5	5	0	1	5
物質工学科	12	9	0	2	1	5
環境都市工学科	12 (1)	9	1	2 (1)	0	4 (1)
一般科目（人文）	30(18)	1(1)	15(6)	13(10)	1(1)	3(2)
一般科目（理数）	22(10)	12(5)	4	6(5)	0	2(2)

※（　）内の数値は，非常勤教員数（内数）
※短時間雇用職員（機械工学科　教授1）は除く
※教員交流制度による受入教員（電気電子工学科　准教授1）は含む
※教員交流制度による派遣教員（一般（人文）　准教授1）は除く

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしており，各教員の専門分野を考慮した配置がなされている。また，修士または博士の学位を取得した教員を中心とし，深く専門的知識を教授できる教育体制をとっている。さらに実践的技術を身につけさせるため，各専門学科に企業経験のある教員を３名以上配置しており，教育目標を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置している。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校では生産システム専攻および環境システム専攻の２専攻を設置している。専攻科の一般科目については，修士以上の学位を取得している教員を中心とし，専門分野に対応した授業科目を担当することにより，工学基礎の知識，コミュニケーション能力，問題解決能力などをより深く身につけさせることができるように配置している（資料３－１－③－１）。また，専攻科の専門科目については，博士の学位を有する教員と企業経験のある教員を中心とした配置を行っている（資料３－１－②－③）。特別研究の指導に関しては博士の学位を有するか，または十分な研究実績を持つ教員を指導教員として配置している（資料３－１－③－２）。

資料３－１－③－１

一般科目専攻科担当教員の専門分野と担当授業表

	職名	氏　名	専門分野	担当授業科目	特別研究担当の有無
国語	准教授	泊　　功	漢文教育、比較文化･比較文学	比較文学論	
社会	教授	四宮　宏貴	東洋史、南アジア地域研究	国際政治論	
		中村　和之	東洋史、歴史教育	科学技術史概論	
英語	教授	奥崎　真理子	英語教育、異文化理解教育	ビジネス英語II	
		竹村　雅史	英語教育学	ビジネス英語演習	
	准教授	高橋　眞規子	英語教育学、テレコミュニケーション	ビジネス英語I	
化学	教授	福島　　純	無機材料化学	材料科学	有
生物	教授	入江　俊明	動物生理学、比較生化学	生物工学基礎	有
物理	教授	長澤　修一	物性物理学理論、理論化学物理		有
	准教授	宮崎　真長	物性理論		有
応用物理	教授	佐藤　博保	金属物性学、強誘電体工学	固体物性論	有
	准教授	田淵　正幸	金属物性学	金属物性論	有

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－２

特別研究Ｉ担当教員の学位取得状況と研究実績一覧

学科名	担当教員	学位		論文		紀要		講演		講演(国際会議)	
		博士	修士	17年度	18年度	17年度	18年度	17年度	18年度	17年度	18年度
機械工学科	7	7	0	8	4	1	3	11	15	4	1
電気電子工学科	8	8	0	3	3	4	5	42	18	9	3
情報工学科	5	5	0	2	3	1	1	8	10	1	1
物質工学科	8	7	0	15	8	1	3	24	19	7	3
環境都市工学科	9	8	1	13	18	2	5	25	38	2	2
一般科目	6	4	0	5	3	2	2	3	1	2	1

（出典　総務課資料，紀要）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科課程の一般科目については，修士以上の学位を取得している教員を中心に配置している。専門科目については，博士の学位取得者や企業経験のある教員を中心とした配置をしている。また，特別研究の指導に関しては，博士の学位を有するか，または十分な研究実績を持つ教員を指導教員として配置している。以上より，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教員の年齢構成に関しては，採用の際に計画性をもって年齢を考慮し，できるだけ特定の年代に集中しないよう均衡を図ってきている。現在の教員の年齢構成は，概ねバランスが取れていると考えられる（資料３－１－④－１）。また，公募の際には，教育経験，実務経験を重視し，企業経験者や他学での教育経験者の割合が適切に保たれるように配慮している。なお，本校の教員に対する学位取得については，内地研究員制度の利用や他大学の大学院での学位取得機会の付与などによって奨励しており，教育研究活動の活性化を図っている（資料３－１－④－２）。

資料３－１－④－１

教員の年齢構成　　**平成１９年4月1日現在**

年齢	機械工学科		電気電子工学科		情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		一般科目（人文）		一般科目（理数）		合 計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
60以上	1	0	1	0	0	0	2	0	1	1	0	10	0	6	22
55-59	2	0	2	0	3	0	3	0	0	0	1	4	3	0	18
50-54	0	0	1	0	1	0	3	0	2	0	4	2	2	1	16
45-49	3	0	1	0	2	0	2	0	1	0	4	2	3	1	19
40-44	1	0	3	0	0	0	1	0	2	0	2	0	1	0	10
35-39	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	2	10
34以下	2	0	2	0	3	0	1	0	5	0	1	1	0	0	15
１９年度合計	10		12		11		12	(1)	12		31	(2)	22		110 (3)

※合計欄の（ ）内の数値は，常勤女性教員数（内数）
※短時間雇用職員（機械工学科　教授1）は除く
※教員交流制度による受入教員（電気電子工学科　准教授1）は含む
※教員交流制度による派遣教員（一般（人文）　准教授1）は除く
※非常勤講師は，平成１９年4月１２日付け採用

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－２

本校在職中に学位を取得した教員実績

年度	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成１８年
人数	2	1	2	1	0	1
備考	博士(工学) 長岡技術科学大学 博士(工学) 長岡技術科学大学	博士(工学) 北海道大学	博士(工学) 北海道大学 博士(工学) 北海道大学	博士(工学) 長岡技術科学大学		博士(工学) 北海道大学

※ 教員以外では、平成１８年度に技術職員１名の学位取得の実績がある。

（出典　総務課資料　）

（分析結果とその根拠理由）

教員組織は，年齢構成の均衡が取れているとともに，教育経験，実務経験を重視し，企業経験者や他学での教育経験者の割合が適切に保たれるように配慮している。また，他の教育研究機関への研修等のキャリアアップのための機会を付与することによって，教育研究活動をより活発化するために適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

平成19年度から改正となった高専設置基準に基づき，新しい教員組織に対応した函館工業高等専門学校における資格基準が定められている（資料３－２－①－１）。

教員の採用や昇格の際には，教員選考委員会を開催し，その審議を経て校長が採用または昇格の可否を決定する。

教員の採用にあたっては必ず公募を行い，上記資格基準に則り，専門科目（一般科目(理科)を含む）担当教員については博士の学位取得者，また，一般科目(理科を除く)担当教員については修士の学位取得者，またはこれと同等以上の教育研究能力を持つ者とすることにした（資料３－２－①-２）。特に，教育能力に関しては，「教育および学生指導に関する実績」と「函館高専での教育に対する抱負」を提出してもらい，教員選考委員会委員による面接の際にその詳細を聞いて教育能力を判断している。また，必要に応じて複数の候補者について，教員選考委員会委員の前で模擬授業（資料３－２-①－３）を行ってもらうことで，教育能力を判断している。

教員の内部昇任に関しては，平成14年度に「教員人事（内部昇任）に関する手続きについて」が制定され，従来は研究業績が主たる要件であったものが，教育，研究，学生指導，地域貢献，管理運営等のすべての分野における活動状況や貢献度についての最低基準が設けられることになり，それまではややあいまいであった昇任資格が明確に示された（資料３－２－①－４）。これにより，現在は内部昇任に関しても公募による新規採用の場合と同様，教員選考委員会で厳正な審議が行われた後，校長が決定することとなっている。

非常勤講師に関しては，必要な科目について常勤教員に専門家がいない場合および常勤教員の負担が極端に過度になる場合に限って任用している。本校の非常勤講師の担当単位数は，在外研究，内地研究，教員交流等の事由で年度により多少の変動はあるが，平成18年度111単位，19年度126単位と全国平均約165単位よりも低くなっている（資料３－２－①－５））。また，任用の際には「函館工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申合せ」（資料３－２－①－６）にしたがって，非常勤講師任用に係る打合せ会議（教務主事および学科等主任によって構成）（資料３－２－①－７）を開催して，任用の妥当性，資格等を検討したのち候補者名簿を作成し，最終的に校長が決定している。

資料３－２－①－１

改正高専設置基準に基づく新しい教員組織に対応した

函館工業高等専門学校における教員の資格基準

１．　教員の資格（平成 19 年 4 月 2 日付け以降に各職種に発令される新任者）

（１）教授（Professor）

改正高専設置基準に定められた教授の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）次の学位または資格を有すること

イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，博士の学位（同等の専門職学位を含む），技術士等の資格または相応しい優れた業績

ロ）一般科目人文系にあっては，博士または修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績

２）専門分野における特に優れた教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力，組織を運営し統括する能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（２）准教授（Associate Professor）

改正高専設置基準に定められた准教授の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）教授の資格に相当する学位，資格等または業績を有すること

２）専門分野における優れた教育または研究業績を有すること

３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（３）講師（Lecturer）

特段の必要性がある場合を除き，常勤の講師はおかない。

ただし，常勤の講師をおく場合は次のとおりとする。

改正高専設置基準に定められた講師の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者

１）教授の資格に相当する学位，資格等または業績を有するか，またはそれを取得する見込

みが極めて高く，次の学位等を有すること
イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績
ロ）一般科目人文系にあっては，相応しい学位，資格または業績
２）専門分野における優れた教育または研究業績を有すること
３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

（４）助教（Assistant Professor）

改正高専設置基準に定められた助教の資格を有し，次の各項目の全てに該当する者
１）教授の資格に相当する学位，資格または業績を有するか，またはそれを取得する見込みが高く，次の学位等を有すること
イ）専門学科および一般科目理数系にあっては，修士の学位（同等の専門職学位を含む），相応しい資格または業績
ロ）一般科目人文系にあっては，相応しい学位，資格または業績
２）専門分野における教育または研究業績を有すること
３）函館高専における教育を担当するに相応しい教育上の能力を有し，教育，学生指導，研究，地域・産学連携に熱意を有すること

次の各項目の何れかに該当する者を助教とする場合には，任期を付すものとする。任期は３年とし，審査に基づき１回に限り更新できるものとする。
１）教授の資格に相当する学位，資格または業績は有しないが，それを取得する見込みが高い者
２）教育に関する経験（ポスドク，ＴＡ等の経験を含む）がなく，教育上の能力を見極める必要のある者

任期を付した助教を任用した場合，任期満了時（あるいは必要に応じて任期途中）の審査は，教員選考委員会において実施する。
審査基準と任期満了時の処遇等については，以下のとおりとする。
１）任期途中での審査は，当該助教が所属する学科等の主任からの申し出により実施する。ただし，その申し出は，任期満了の７ヶ月前を過ぎてはならないものとする。
２）任期満了に伴う審査は，当該助教が所属する学科等の主任からの申し出の有無にかかわらず，任期満了の６ヶ月前に実施する。
３）学位，資格または業績の取得に関する審査においては，それを取得したか，任期満了時点までに取得することが確実である場合（証明書等の明確な裏付け資料が必要）において，合格とする。
４）教育上の能力に関する審査においては，明確な裏付け資料等に基づいて「能力がある」と評価される場合に，合格とする。
５）合格となった場合には，任期を付さない助教として継続任用する。

６）不合格となった場合には，その決定に対する異議申し立て（不合格通知後 2 週間以内）とそれに対する審査（異議申し立て受領後１ヶ月以内に審査結果を決定）を経た上で，それが確定した場合において，任期満了時点で解雇する。
ただし，函館高専における教育を実施する上で特に必要があると判断され，また当人の同意がある場合においては，助手（または技術職員）として任用を継続することができるものとする。

（５）助手（Assistant）

特段の必要性がある場合を除き，助手はおかない。
ただし，助手をおく場合は次のとおりとする。

改正高専設置基準に定められた助手の資格を有する者（以下に該当する者）

・ 学士もしくは短期大学士の学位または準学士の称号を有する者

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－２

函館工業高等専門学校一般科目（理数系）理科教員の公募

１．職名及び人員：　教授　１名
２．所属学科：　一般科目（理数系）
３．専門分野：　生物科学（特に機能生物工学）の分野において業績のある方
４．担当科目：　本科において：生物の基礎に関連する科目，化学，情報処理基礎，卒業研究
専攻科において：機能生物工学に関連する科目，特別研究等
を予定
※化学，情報処理基礎，卒業研究の内容については，本校ＨＰのシラバスをご参照ください。
５．応募資格：
（１）高専における教育・研究・学生指導（学級担任をはじめ，学生の生活指導，寮生指導，課外活動等）に熱意のある方で，本校の運営等に積極的かつ協調的に参画できる方
（２）当該専門に精通しており，関連する授業，演習，研究の指導ができるとともに，生物の基礎，化学，情報処理基礎の授業をを担当できる方
（３）博士の学位を有するか，着任時までに取得見込みの方
（４）着任時，４５歳以上の方
（５）大学・高等専門学校・高校等での教育経験がある方が望ましい
６．採用予定日：　平成１７年９月１日（木）
７．応募期限：　平成１７年５月３１日（火）（必着）
８．提出書類：
（１）履歴書（本校様式，写真貼付）
（２）研究業績目録（本校様式）
（３）研究業績概要（Ａ４版，２０００字以内で，これまでの研究業績全般について記述。書式自由）
（４）主要論文３編の別刷（コピーでも可）各３部
（５）教育，学生指導（課外活動を含む）および管理運営等に関する実績（本校様式）
（６）高専における教育・研究・学生指導（課外活動を含む）等に関する抱負（Ａ４版，２０００字以内，書式自由）
（７）推薦状１通または照会先２名（氏名，所属，応募者との関係，住所，電話・FAX 番号，E-mail アドレス等を明記）
９．問い合わせ先：
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番１号
函館工業高等専門学校　一般科目理数系主任（教授）　福島　純
TEL&FAX：0138 (59)6378 (直通)　E-mail：fukusima@hakodate-ct.ac.jp
※　高専は業務内容において大学と異なる点がありますので，十分ご理解の上ご応募ください。なお，本校の概要，業務内容および公募等の詳細については，下記ホームページをご覧下さい。応募書類は，ホームページからダウンロードできます。
ホームページ：http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-g/koubo.htm
10．書類提出先：
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番１号
函館工業高等専門学校　校長　長谷川　淳
書類提出に関する連絡先：函館工業高等専門学校　庶務課人事係
TEL：0138 (59)6313　(直通)
FAX：0138 (59)6310
※　封筒に「一般科目理数系教員応募」と朱書きの上，書留で郵送願います。
11．選考方法
（１）書類審査
（２）面接（書類審査後，連絡致します。なお，面接等のために要する旅費は，個人負担となります。）

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－３

国語科教員公募第二次選考について

（Ａ）模擬授業の概要について

採用となった場合，あなたには主に第2学年の国語演習という科目を担当していただく予定でおります。(他にも担当科目はあります。)この2年国語演習という科目は，教育課程の改正により来年度から開設される科目で，国語表現分野のうち，「話すこと・聞くこと」の力の養成に主眼をおいた通年2単位の演習科目です。プレゼンテーションやディベートなどを含む，いわゆる口頭発表力を養うための科目です。

そこで，模擬授業も，来年度担当していただくことになるこの２年国語演習について，年間の大まかな授業計画を立てていただき，その中から任意の1単位時間(４５分間)を選び，指導案を事前に提出の上，授業を実際に行っていただくということにしました。本校の場合，通年２単位であれば，授業は週1回で，１回毎の授業は９０分(１単位４５分として，間に５分休みを挟み，連続２単位時間実施します。)となりますが，模擬授業では，1単位時間すなわち45分間だけ行っていただきます。

（Ｂ）２年国語演習の構想について

まず，２2年国語演習の年間を通した大まかな授業構想をA4版１枚以内で作成していただきます。様式は自由ですが，横書きで3部提出願います。参考までに，今年度本校で作成したシラバス(年間授業計画書)と来年度の本校行事予定表(案)を同封しましたので，行事予定を参照の上，このシラバスの様式で作成されても結構です。(採用になった場合には，実際にこのような様式でシラバスを作成していただくことになります。)

教科書は，使っても使わなくてもかまいません。(使用の場合は，文部科学省検定済みでなくても問題ありません。)手作りの教材でも結構です。ＯＨＰ・ＶＴＲ・プロジェクター・パソコン等の機器の使用も可です。

演習科目ですので，学生の能動的活動を中心に授業を構成してください。評価については，ペーパーテストで行わなくても結構です。授業内容については，採用予定者の創意工夫を最大限に尊重しますので，本校ホームページに掲載された国語科の開設科目内容の細部にあまりとらわれることなく，それぞれの得意分野や個性を生かした独自のものを開拓してください。

「話すこと・聞くこと」の音声言語能力の育成が主眼とはいえ，授業の中に「書くこと・読むこと」など，別の活動を複合的に盛り込むことはなんら差し支えありませんし，むしろ，その方が望ましいと考えます。

（C）指導案について

（B）の大まかな年間授業構想の中から，任意の単元(授業項目)を選び，その単元の意義・指導目標・指導計画(配当時間入り)を明らかにした上で，本時(模擬授業時)の目標・授業の流れ・学生の活動・教師の働きかけ・指導上の留意点などを表形式にまとめた指導案を3部提出していただきます。参考までに，様式のモデルを一つ同封しましたが，これにとらわれず，独自のものを作成されても結構です。

（D）当日の模擬授業について

模擬授業は，（C）で作成した指導案に基づき，45分間で行っていただきます。本校教職員が学生役を務め，机に向かいます。(人数は10～12名とお考えください。)テキス声がある場合には，当日必要部数をご持参になるか，あらかじめ郵送されるかしてください。学生役の本校教職員に対しては，教職員とは考えず，あくまで学生として扱い，遠慮なく指名するなどして結構です。(本校教職員は，胸にネームプレートを付けております。)

筆記具とノート代わりの紙は全員分用意しますが，それ以外で必要なものがあれば，事前にお知らせください。教室は，本校視聴覚室を予定しております。視聴覚機器ご使用の場合にも，事前年ご連絡ください。黒板ではなく，ホワイトボードになります。

当日は，授業の前に，教室の下見や打ち合わせなどの時間を若干とりますが，それ以前にご質問などありましたら，下記担当者宛に電話・ファックス・電子メールなどでお問い合わせください。

（E）書類の提出・問い合せ先について

（B）の２年国語演習の構想と（C）の指導案各3部の提出および問い合わせ先は以下の通りです。

① 提出方法－書留郵便とし，封筒の表に「国語科教員公募第二次選考書類」と朱書きすること。

② 提出先・問い合せ先－〒042-8501函館市戸倉町14番1号函館工業高等専門学校，
松代周平宛
TEL・FAX:0138(59)6362(直通)
Eメール:matusiro@hakodate-ct.ac.’

③ 提出期限－平成16年1月15日(木)必着

（F）模擬授業`面接の日程について

①模擬授業一平成16年1月17日(土)時
②面接一平成16年1月17日(土)模擬授業終了後
※当日は　　時までに本校庶務課までお出でください。

（G）採否の通知について

採否は，平成16年1月31日(土)までに文書により通知します。

指　導　案　の　一　例

授業者－○○○○

単元の指導計画

単元名	
単元の意　義	
指導目標	
指導計画（配当時間）	

本時の展開

本時の目標			
授業の流れ	学生の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－４

教員人事（内部昇任）に関する手続きについて（抜粋）

校長裁定：平成１４年２月２６日
改　　正：平成１４年４月３０日

平成 13 年 7 月より、国立高等専門学校の教授及び助教授についての選考の権限が、文部科学大臣から校長に委任されました。これは、全国の高専が一律・横並びに進むことから脱却して、各高専が特色ある発展を目指すための改革の一環ということができます。これを機会に、本校の教育について特色ある発展を目指して、教員人事(内部昇任)に関する手続きを次のとおり定めます。

１．従来、文部科学省の審査委員会では、著書・論文等の「研究」内容を中心に評価されていたと思われるが、今後は「研究」のみならず、「教育」、「課外活動等の学生指導」、「校務分掌担当状況」、「その他の貢献」等も考慮し、総合的に評価する。
２．内部昇任に際しては、「研究」、「教育」、「課外活動等の学生指導」、「校務分掌担当状況」、「その他の貢献」の各項目について評価の基準を設定し、それに基づいて評価を行う。
(２) 内部昇任に際しては、いくつかの最低基準を設ける。
３．内部昇任の発議は、教員選考委員会が行う。
４．選考に際しては、次の資料を参考とするものとし、教員選考委員会の座長が当該学科の選考委員に対して資料の作成及び取りまとめを依頼する。
　(1) 「教員業績調査表」（昇任候補者が校長宛提出済のもの）
　(2) 「教員選考資料要約（推薦書を兼ねる）」(学科の選考委員作成)（フォーマットⅠ）
　(3) 「自己推薦書」（昇任候補者作成）
　(4) 「履歴書」（昇任格候補者作成）

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－５

● 非常勤講師任用者数・単位数

年度	国語		社会		倫理学		数学		応数・応物		理科		英語		ドイツ語		フランス語		ロシア語		スポーツ科学		留学生		機械		電気電子		情報		物質		環都		専攻科		計	
	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位	任用	単位
14年度	6		4				5		0		2		8		2		1				2		1		0		2		0		1		2				36	
		37		10				19		0		11		21		6		6				17		6		0		2		0		1		3				139
15年度	6		4				5		0		2		7		2		1				3		1		0		0		0		1		2				34	
		23		8				23		0		11		17		5		6				15		6		0		0		0		1		3				118
16年度	5		5				5		0		2		6		3		1				3		1		0		0		0		1		2		0		34	
		20		7				22		0		11		17		9		6				16		6		0		0		0		3		2		0		119
17年度	4		3				6		2		2		3		3		1				3		1		0		0		1		0		2		3		34	
		20		6				34		3		11		17		7		6				21		6		0		0		2		0		2		6		141
18年度	5		4				5		0		1		4		2		1				3		1		0		0		1		1		2		0		30	
		16		16				20		0		4		24		2		2				16		6		0		0		2		1		2		0		111
うち教員交流にかかる分			(2)	(14)																																	(2)	(14)
19年度	4		5		1		5		4		1		4		1		0		1		3		1		0		0		0		0		1		0		31	
		16		22		1		26		6		4		24		2		0		2		16		6		0		0		0		0		1		0		126
うち教員交流にかかる分			(2)	(14)																																	(2)	(14)

（参考）

○14年度　三上教員内地研究員（国語）　18単位

○17年度　佐藤友信教員内地研究員（数学）14単位

教員急病のため（応用物理・応用数学）3単位

教員欠員のため（情報工学科）2単位

教員欠員のため（専攻科）6単位

○18年度　泊教員外地研究員（国語）　12単位

○19年度　菅教員外地研究員（応用数学）　6単位

（出典　学生課資料）

資料３－２－①－６

○函館工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

昭和62年7月6日
函高専達第1号

函館工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

（趣旨）

1　函館工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については，教育効果の向上と人事管理等適切に行うため，この申し合わせによるものとする。

（任用基準）

2　非常勤講師は，優れた識見をもち，本校の教育方針に添つた教育指導のできる者で，次に該当するものとする。

(1)　高等専門学校設置基準（昭和36年8月30日文部省令第23号）に定められた講師以上の資格を有すること。

(2)　69歳未満（各年度の4月1日現在）であること。

(3)　心身ともに健全であること。

（任用方法）

3　任用は選考により行う。

(1)　選考は，年次計画に基づき作成された任用候補者名簿の中から，校長が行う。

(2)　任用候補者名簿は，教務主事が学科主任等の協力を得て作成するものとする。

（選考書類）

4　選考に必要な書類は，次に掲げるものとする。

(1)　履歴書（教育指導歴，研究歴を含む）

(2)　その他必要と認める書類

（特例）

5　特別な事情により，この申し合わせにより難い場合は，校長は別段の取扱いをすることができる。

（事務）

6　事務は，総務課人事係で処理する。

附　則

この申し合わせは，昭和62年7月6日から施行し，昭和63年4月1日から適用する。

附　則

この規程は，平成18年4月1日から施行する。

（出典　規程集　http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/reiki_int/reiki_honbun/au05700521.html）

資料３－２－①－７

平成１９年度非常勤講師任用に係る打合せ会議について

日　　時　　平成１９年１月１２日（金）　１６時２０分～１６時５０分
場　　所　　共用会議室
出　席　者　　小原教務主事
　　学科主任（切明，木村，韮澤，四宮，福島）
　　堀北人事係長，菅股教務係長，瀬川教務主任
欠　席　者　　國分学科主任，水上学科主任，田邊学生課長

（議　　事）
◎　平成１９年度非常勤講師の申請について
　審議に先立ち，小原教務主事から，非常勤講師任用について本校は，全国的にみても任用数が少ないところであるが，今後も同様に努力していただきたいとの挨拶があった。
　引き続き，資料に基づいて各主任から以下のとおり説明があり，予定者全員の非常勤講師任用が了承された。

１．一般科目（人文系）について
四宮一般科目（人文系）主任から，以下のとおり説明があった。
〇国語
継続者４名（１６単位分）を申請する。
〇社会
継続者４名（１８単位分），新規１名（４単位分）を申請する。
うち，２名（地理・１０単位分，現代社会・４単位分）は奥平教員の高専間教員交流人事に伴うものである。
現代社会担当の２名については，規程の年齢を超えているが特別な事情により任用を許可することで了承された。
〇倫理学
新規１名（１単位分）を申請する。過去の非常勤講師任用経験者である。
〇英語
継続者４名（計２４単位分）を申請する。
〇ドイツ語
継続者１名（２単位分）を申請する。
〇ロシア語
新規１名（２単位分）を申請する。
〇スポーツ科学
継続者３名（１６単位分）を申請する。

２．一般科目（理数系）について
福島一般科目（理数系）主任から，以下のとおり説明があった。
なお，菅教員の外地研究に伴い１４単位分を非常勤講師４名と本校教員に割り充てた。
〇数学
継続者５名（２６単位分）を申請する。
〇応用数学
新規４名（６単位分）を申請する。
応用数学Ⅱ担当の１名については，規程の年齢を超えているが特別な事情により任用を許可することで了承された。
〇理科
継続者１名（４単位分）を申請する。

３．環境都市工学科について
韮澤学科主任から，前年度より継続して１名（１単位分）を申請する旨の説明があった。

４．留学生について
小原教務主事から，前年度より継続して１名（６単位分）を申請する旨の説明があった。

５．非常勤講師職員の標準単価の改定について
掘北人事係長から資料に基づき，平成１９年度から下記のように改定となる旨の説明があった。

時間単価　５,１００円　→　４,９００円　（全国で統一）

なお，非常勤講師への周知については，任用を依頼する時に文書で通知するものとする。

（出典　非常勤講師任用に係る打合せ会議　議事録）

（分析結果とその根拠理由）

新規採用の場合，専門科目（一般科目(理科)を含む）担当教員については博士の学位取得者，また，一般科目(理科を除く)担当教員については修士の学位取得者，またはこれと同等以上の教育研究能力を持つ者を採用している。また，採用の時，教育能力についても実績または模擬試験などで評価を行っている。内部昇格に関しては，平成14年度に「教育人事（内部昇任）に関する手続きについて」が制定され，明確かつ適切に定められている。これにより，教員の採用・昇格に関しては教員選考委員会で厳正な審議によって，適切に運用されている。

また，非常勤講師の任用については，申合せに明確に規定された基準および手順を毎年実施しており，適切な任用を行っている。

観点３－２－②：　教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の評価・顕彰に関しては，平成16年度に運営委員会教育貢献度評価ワーキンググループを設置し，教員の評価・顕彰について検討を行い，教員の教育，研究，学生指導，管理運営，地域貢献等の業績について表彰を行う制度を定めた。これに基づき，平成17年度から，前年度の業績に対して顕彰を実施しており（資料３－２－②－１），高専教員としての活動の活発化が図られている。表彰を受けた教員は，次年度の教育研究費にインセンティブが付与されている（資料３－２－②－２）。また，機構による顕彰制度にも積極的に参画し，これまで３名の教員が受賞した実績がある。さらに各年度の各教員の教育研究活動（教育，研究，学生指導，管理運営，地域貢献）を本校独自の教育研究業績調査用紙にまとめたものを校長に提出し，評価を受けている（資料３－２－②－３）。

平成12年度から，毎年，授業理解アンケート調査を教務委員会が主体となって実施している。さらに，その結果に対して各教員が自己評価と改善に関するコメントを記述したものを冊子にまとめ，学生に配布するとともに学内専用ウェブサイト上でも公開（http://10.120.10.5/~iw-kyomu/rikai/h16/index.html）しており，学生側と教員側の双方向から，教育改善のための努力がなされている。

平成16年度から保護者懇談会の日に授業を実施し，保護者による授業参観を実施し始めた（資料３－２－②－４）。平成17年度からは，全教員による授業公開・授業観察を実施しており，授業の公開と他教員の授業観察をそれぞれ最低一回ずつ行うこととした。さらに，各教員が，観察した授業については，報告書を提出するとともに，その報告書に基づいて自らの授業の自己評価あるいは改善点などをまとめ報告書を提出することが義務づけられた（資料３－２－②－５）。これらの報告書は，学内教職員向けウェブサイトで学内に公表（http://webclass.hakodate-ct.ac.jp/webclass/login.php）されている。

資料３－２－②－１

平成１８年度函館高専教員顕彰（校長賞）実施要項

１，目的

本校の教育並びに学生指導，管理運営，地域貢献及び研究活動に関して特に顕著な功績を挙げた教員について，若干名を校長賞として顕彰することにより，本校の教育及びその他の活動の一層の向上を図ることを目的とする。

２，賞の種類

校長賞として次の３部門の賞を授与する。

（１）優秀教員賞・・・本校における教育，学生指導，研究，地域貢献，管理運営等を総合して貢献した教員（原則１名）

（２）教育貢献賞・・・本校の教育及び学生指導に関して特に顕著な実績をあげた教員（若干名）

（３）業　績　賞・・・本校の地域貢献，研究活動及び管理運営に関して特に顕著な実績をあげた教員（若干名）

３，教員顕彰選考委員会

教員顕彰候補者を選考し，校長に推薦するため，次の委員による「教員顕彰選考委員会」を設置する。なお，当該委員が被推薦者となった場合は，その賞の選考委員から除外する。

（１）副校長

（２）教務主事，学生主事，寮務主事

（３）専攻科長

（４）その他校長が必要と認めた者

４，被顕彰者の選考及び決定

（１）「優秀教員賞」においては，「平成１７年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項」により，校長が運営委員会に諮り決定する。

（２）「教育貢献賞」及び「業績賞」においては，次の手順により選考し，決定する。

①　本校の教員は，該当すると思われる者について，別紙様式により教員顕彰選考委員会に推薦する。（自薦も可とする。）

②　教員顕彰選考委員会は，教員顕彰候補者を選考し，校長に推薦する。

③　校長は，運営委員会に諮り決定する。

５，表彰

（１）校長から賞状を授与する。

（２）平成１８年６月の教員会議の席上で行う。

（３）内外に公表する。

６，選考基準

（１）優秀教員賞

「平成１７年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づき，当該候補者として推薦された教員もしくは推薦候補となった教員

（２）教育貢献賞

① 講義，実習，実験において自らの工夫等においてわかりやすく，かつレベルの高い教育を効果的に行った者

② 教科書の編纂，プリントの作成，情報機器を用いた教材の開発などで，教育効果を高めた者

③ ＦＤに関する学会等での発表などＦＤ活動を活発に行い，授業改善に努めた者

④ 学級運営に優れた成果を収めた者

⑤ クラブ活動を積極的に支援し，顕著な成績を上げることに著しく貢献した者

（３）業績賞（地域貢献，研究活動，管理運営）

① 公開講座，技術相談，受託試験等で地域に著しく貢献した者（地域貢献）

② ボランティア活動などを通じて社会貢献に顕著な功績があった者（地域貢献）

③ 共同研究，受託研究等で顕著な業績をあげた者（研究活動）

④ 発明・特許等の知的財産において顕著な業績をあげた者（研究活動）

⑤ 各種委員会において精力的に活動し，その結果優れた成果をあげた者（管理運営）

《補足》１人の教員に対して同じ種類の賞での２年連続しての顕彰は，原則として行わないこととする。（※昨年度実績添付）

７，教員顕彰推薦書提出期限

「教育貢献賞」及び「業績賞」に該当すると思われる教員がいる場合は，次により推薦書を提出すること。

提出期限：平成１８年６月２日（金）
提 出 先：総務課人事係

（別紙）

函館工業高等専門学校教員顕彰(校長賞)推薦書（案）

所　属		職　名	
氏　名		生年月日・年齢	
推薦者:所属・職名		推薦者：氏　名	
功 績 の 概 要			
推薦の対象となる該当事項事項（表彰の種類のうち該当するものを選択）	２．教育貢献賞 ３．業　績　賞（ 地域貢献，研究活動，管理運営 ）		
推　薦　理　由（客観的に証明される資料等を添付すること）			

※推薦理由及び添付資料に関しては，被推薦者による記述及び提供も可とする。

平成１７年度 函館高専 教員顕彰（校長賞）被表彰者一覧

番号	賞の種類	表彰の種類	所属・職名	氏　名	表彰理由
1	教育貢献賞	―――	機械工学科 助教授	本村　真治	平成５年度からのロボットコンテストの指導・支援活動と全国大会６回出場への多大な貢献。教務委員会における「授業理解調査」集計や公開講座の計画・運営における貢献。
2		―――	電気電子工学科 教授	森田　　孝	１Ｅ「電気回路」の授業への「講義シート」の導入による授業改善・成績向上の実現。その成果をH16年度全国高専教員研究集会で発表し，高い評価を獲得。JABEE対応部会長，学術情報センター長として卓越した指導力を発揮。
3		―――	情報工学科 助教授	佐藤　恵一	平成14年以降，電子計算室長，情報教育演習室長として，ネットワーク環境の整備と情報処理教育の向上に中心的存在として貢献。E-learning　システムの導入や入試成績集計システムの改善にも貢献。
4		―――	物質工学科 助教授	伊藤　穂高	授業において，最新の話題を取り上げ，学生が自ら興味と意欲をもって取り組めるような問題解決型の授業展開をするなど，努力と工夫を重ね熱心に授業改善を実践。学生からの極めて高い評価。
5		―――	物質工学科 助教授	小林　淳哉	事故で重度の障害を負った学生の卒業研究指導および専攻科での特別研究指導を担当し，学業の継続，専攻科入学，学会発表，大学編入開拓など，熱心な指導によって高い成果を上げることに多大な貢献。
6		―――	環境都市工学科 助教授	澤村　秀治	専攻科教科「技術者倫理」の周到な準備と実践。本科における優れた教授方法と「コンクリート構造設計製図」における実践的な指導。寮務主事補及び剣道部顧問における献身的な活動。
7		―――	一般科目理数系 助教授	新田　一夫	教科教育（数学）における教育方法の工夫（数学電卓の活用等）と優れた教授方法。暖かみのある的確な学級指導と労を厭わないクラブ（サッカー部）指導。
8	業　績　賞	①地域貢献	機械工学科 助教授	山田　　誠	H16年度，公開講座を責任者として４回，協力者として３回担当し，地域における本校の声価を高めることに貢献。実習工場長，野球部顧問等の献身的な活動。
9		①地域貢献， ②研究活動	一般科目人文系・ 助教授	清野　國安	H16年度全日本柔道形競技大会の「固の形」において，北海道地区代表として出場し３位に入賞。 函館柔道連盟の副理事長として，地域の柔道界に貢献。
10		②研究活動	電気電子工学科 助教授	山田　一雅	日本金属学会第52回物性部門論文賞　受賞。 H16年度ネットワーク管理室長等での活躍。
11		③管理運営	機械工学科 教授	浜　　克己	専攻科生産システム工学専攻長として，インターンシップ，特別研究，PBL実験等専攻科教科の内容確立，整備に貢献。技術相談室長，創造工房長等での献身的活動。
12		③管理運営 【優秀教員賞】	環境都市工学科 助教授	渡邊　　力	JABEE対応副部会長として，試験答案保存方法や自己点検評価等のシステム化を軌道にのせるなどの指導的活動。 専門教科「構造力学」や専攻科教科における優れた教育方法と学生の高い評価。
13		③管理運営	一般科目理数系 助教授	長澤　　修一	教務主事補として，「成績評定及び進級規程の」改正案作成の中心的役割を果たし，その後の教務委員会や学科での討議でリーダーシップを発揮。

平成１８年度　函館高専　教員顕彰（校長賞）被顕彰者一覧

番号	賞の種類	表彰の種類	所属・職名	氏　名	表彰理由
1	教育貢献賞		電気電子工学科・助教授	柳谷　俊一	学校全体の教育改善に精力的に取り組み，FD-WG メンバーとして，FD ジャーナルの取材・編集やアンケート調査の実施・集約など学内 FD 活動の浸透に貢献した。また，自らの授業についても積極的に改善を行い，その結果学生から高い信頼を受けている。
2			一般科目人文系・教授	奥崎真理子	専攻科学生の海外派遣ならびに英語による特別研究の成果発表というプロジェクトの企画から予算獲得，訪問先との交渉，学生の指導・引率まで全てを担当し，海外との交流システムの道を開いた。
3	業　績　賞	①地域貢献，②研究活動	機械工学科・助教授	本村　真治	公開講座の実施，技術相談室長としての数多くの技術相談への対応，「おとなの学校」の講師，小中学生への理工学教育支援，受託研究の受け入れなど，地域貢献・研究活動に優れた成果をあげた。
4		①地域貢献【優秀教員賞】	物質工学科・教授	小林　淳哉	地域連携推進室長として 3 種類の研究ＰＲ冊子の編集，出前講座一覧の作成，公開講座の実施，技術相談への親身な対応など多大なる成果をあげた。他に，専攻科副専攻長。過半数代表者も務め，超人的な活躍をした。
5		①地域貢献，②研究活動	物質工学科・助教授	上野　　孝	函館特産のイカ墨について精力的な研究を続け，平成 15 年に文部科学省都市エリア産学官連携推進事業に採択されて大きな成果をあげた。これらの成果は新聞・テレビでも報道され，本校の声価を高めた。
6		③管理運営	一般科目人文系・教授	松代　周平	平成 14 年から寮務主事として，春潮寮の抜本的な改革を断行し，ゆがんだ上下関係など悪しき伝統の多くを打ち切らせることに成功した。また，女子寮の開設と教育寮と呼ぶにふさわしい寮生指導体制の確立に優れた成果をあげた。
7		①地域貢献	一般科目人文系・教授	中村　和之	大学 Jr ｻｲｴﾝｽ事業の指定を受けた講座を含め三つの公開講座を実施し，いずれも多くの参加者と高い評価を受けた。また，上記の成果をアカデミックフォーラムにおいて発表し，地域における本校の声価を高めることに貢献した。

（出典　運営委員会資料）

資料３－２－②－２

平成１８年度校長裁量経費配分一覧（抜粋）

種目等	学科等	職　名	氏　　名	申請額	配分額	備　　考
教員顕彰	機械工学科	教授	[redacted]		100,000	高専機構理事長賞
	物質工学科	教授	[redacted]		100,000	優秀教員賞
	電気電子工学科	助教授	[redacted]		50,000	教育貢献賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	教育貢献賞
	機械工学科	助教授	[redacted]		50,000	業績賞
	物質工学科	助教授	[redacted]		50,000	業績賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	業績賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	業績賞

（出典　運営委員会資料）

資料３－２－②－３（平成16･17年度　教員業績評価用調査フォーマットおよび履歴書(**抜粋**)）

函館工業高等専門学校

平成 16･17 年度　教員業績評価用調査フォーマットおよび履歴書

[HNCT ver.2006-4]

主な項目

Ⅰ　教育業績調査用フォーマット

Ⅱ　研究業績調査用フォーマット

Ⅲ　学生の課外活動および生活指導等に関する業績調査用フォーマット

Ⅳ　管理運営に関する業績調査用フォーマット

Ⅴ　社会貢献およびその他に関する業績調査用フォーマット

Ⅵ　その他

Ⅶ　Ⅰ～Ⅴの各項目に関する提案，抱負，意見など

Ⅷ　履歴書

教員業績評価のための教育，学生指導，研究，管理運営，社会貢献等調査用フォーマット
(平成 16･17 年度用)
[HNCTver.2006-4]

0 氏名・所属等

1)	所属学科	
2)	氏名（ふりがな）	（　　）
3)	現職名	
4)	年齢（H18.4.1 現在）	歳

I 教育業績調査用フォーマット

A．教育の指導に関わる実績

1．教育の経験（平成１８年４月１日現在）（２年６ヶ月のような場合は，2.5 年のように年単位に換算して記入。）

1)	函館高専における在籍年数					
	(1)総計		年			
	(2)助手		年			
	(3)講師		年			
	(4)助教授		年			
	(5)教授		年			
2)	函館高専以外の教育機関における教育経験と年数（本校に採用される以前のもの。非常勤講師を含む。）					
	(1)機関名，年数，職名	機関名：		年	職名：	
		機関名：		年	職名：	
		機関名：		年	職名：	
		機関名：		年	職名：	

2．函館高専における担当科目について（卒業研究および特別研究は除く。）

（１）平成 16 年度

	科目名	専攻科科目についてのみ“専”と記入	一般･専門の別	単位数	形式(講義･実験実習の別)	必修・選択の別	担当教員数[名]	代表･分担別	クラス(学年･科)	学生人数
1										
2										
3										
4										

（２）平成 17 年度

	科目名	専攻科科目についてのみ“専”と記入	一般･専門の別	単位数	形式(講義･実験実習の別)	必修・選択の別	担当教員数[名]	代表･分担別	クラス(学年･科)	学生人数
1										
2										
3										
4										

３．補講，補習等の実施状況について（授業時間以外に行ったもの[実験実習，大学編入学指導，高校からの編入学生の指導糖を含む]。休講等による補講は除く。）

（１）平成 16 年度

	科目名	クラス又は対象学生(複数可)(学年･科)	学生人数[名]	回数[回]	時間数［時間］	内容等
1						
2						
3						
4						

（２）平成 17 年度

	科目名	クラス又は対象学生(複数可)(学年･科)	学生人数[名]	回数[回]	時間数［時間］	内容等
1						
2						
3						
4						

４．担当授業外の各種引率(工場見学，社会見学等の引率)について（バス特活，クラブ指導は除く）

（１）平成 16 年度

	内容	学生人数	引率者人数	時間
1				
2				
3				
4				

（２）平成 17 年度

	内容	学生人数	引率者人数	時間
1				
2				
3				
4				

５．**平成 16・17 年度**におけるキャリア教育に関連する学生支援（インターンシップ奨励支援，就職支援，企業訪問，見学旅行の引率等について指導，引率等）※４．と重複も可。

年度	支援事項	内容	備考

７．卒業研究（本科）の指導

（１）平成 16 年度

1)単位数		単位			
2)平成 16 年度の時間外指導時間		時間			
3)平成 16 年度の年間指導人数		人			
4)成果発表の件数	学会発表		人	学会名等	
	学術論文		報	発表誌名	
	その他			内容	
	複数の年度に跨るもの				

※1)学会発表については，学生が発表した件数を記入。
2)論文は，卒研学生名が連名で入っているものについて記入。(指導教官がまとめたものも可。)
3)複数の年度に跨る成果をまとめたものについては最下欄にその内容 等を具体的に記入。

（２）平成 17 年度

1)単位数		単位			
2)平成 16 年度の時間外指導時間		時間			
3)平成 16 年度の年間指導人数		人			
4)成果発表の件数	学会発表		人	学会名等	
	学術論文		報	発表誌名	
	その他			内容	
	複数の年度に跨るもの				

８．特別研究（専攻科）の指導

（１）平成 16 年度

1)単位数		単位			
2)平成 16 年度の時間外指導時間		時間			
3)平成 16 年度の年間指導人数		人			
4)成果発表の件数	学会発表		人	学会名等	
	学術論文		報	発表誌名	
	その他			内容	
	複数の年度に跨るもの				

※1)学会発表については，学生が発表した件数を記入。
2)論文は，卒研学生名が連名で入っているものについて記入。(指導教官がまとめたものも可。)
3)複数の年度に跨る成果をまとめたものについては最下欄にその内容 等を具体的に記入。

（２）平成 17 年度

1)単位数		単位			
2)平成 16 年度の時間外指導時間		時間			
3)平成 16 年度の年間指導人数		人			
4)成果発表の件数	学会発表		人	学会名等	
	学術論文		報	発表誌名	
	その他			内容	
	複数の年度に跨るもの				

★ Ａの１～８について特記すべき事項がありましたらご記入ください。（簡潔かつ具体的に箇条書きで記述してください。）

資料３－２－②－４

平成 18 年度保護者授業参観アンケート結果			
学年	学科	科目	感想内容
1	M	基礎数学Ⅰ	授業内容が分からなかった。
1	M	基礎数学Ⅰ	部屋が暑く，眠くなる子供たちが多いと思います。教室の温度調節ご考慮下さい。
1	M	基礎数学Ⅰ	とても静かに授業が行われていて，学生のみんなも先生の話をよく効いて授業を受けていることに感心しました。
1	E	基礎数学Ⅰ	中学卒業後授業参観できるとは思っていませんでしたので，親としては楽しく参観しました。 授業中に携帯が行きかうのを見たときはちょっとがっかりしましたが思っていたより静かに授業していたので少し安心しました。(授業によって違いがあるかもしれませんが)
1	J	基礎電子工学	思ったより生徒がちゃんと授業を聞いているので良かったです。もう少し，生徒とのやり取りやコミュニケーションがあればもっと良かったと思いました。
1	J	基礎電子工学	中学のときとは違い，生徒への問いかけや質問などを受けることがないようですね。高専はこういうものなのかなあ～と思いました。
2	J	コンピュータアーキテクチャⅠ	学生に理解したかを確認しながら授業を進めていてわかりやすいのだろうと思いました。
2	J	コンピュータアーキテクチャⅠ	とてもむずかしい授業で，子供がこのようなむずかしい授業を受けているとは知らなかったです。先生はとても分かりやすかったと思います。
2	J	コンピュータアーキテクチャⅠ	Ⅰ学年の時よりも子供たちの姿に落ち着きが見られ，成長しているなあと感心しました。もう少し発表に元気があっても良いかなあと思いました。
2	J	コンピュータアーキテクチャⅠ	授業中大変静かで良い。
2	J	コンピュータアーキテクチャⅠ	授業の進め方が例題を多くし，学生の答えさせる手法は，授業の理解を深めるには良いと思いました。
2	C	微分積分	静かに授業を受けている様子で一年生のときより落ち着いていると感じました。
2	C	微分積分	思っていた以上に生徒たちが真剣に授業を聞いていたので感心しました。(授業参観だったからでしょうか。)
3	M	工業力学	学生の授業態度が少し悪いと感じた。
3	M	工業力学	秋葉先生の授業は大変楽しそうでした。
3	E	デジタル回路Ⅱ	とても静かな授業でした。
3	E	デジタル回路Ⅱ	(学年学科名以外は白紙)
3	J	情報数学Ⅰ	有意義な授業でした。ご苦労様です。
3	C	設計製図	4 学年の親ですが，高専の設計製図の授業参観をしてみたかったのが実現してとても嬉しかった。ありがとうございました。宣伝になると思います，中学に。
3	C	設計製図	教室には入りづらいですね。
4	C	化学工学Ⅱ	階級作図の授業でしたが，専門的な授業を受けている学生の態度は様々で，とても積極的に発言している子，私語をしている子等，進学･就職問わず，1 時間後との授業の大切さの認識の違いは，今後の進路での重要性を感じました。
			以上　計 21 件投函

（出典　教務委員会ＦＤワーキンググループ資料）

資料３－２－②－５

授　業　観　察　報　告　書	
授業参観者	柳谷　俊一
参観日時	１１月２日　木曜日　３・４講目
学科　学年	第４学年　電気電子工学科
科目名	「電子材料工学」
授業者	石井　先生

●　学生について

ほとんどの学生がまじめに授業に取り組んでおり，また，何人かの学生が質問をするなど，積極的に講義を聴いている印象でした。

休み時間が終わり，授業を再開してからも居眠りを続けている学生が 2 名いました（窓側の一番後ろの席）。しばらくして，石井先生の注意で目を覚まし，先生の話しを聞いていましたが，その後はどちらの学生も板書された内容をノートに写すことはしていませんでした。一度寝てしまって板書が追いつかなくなると，それ以降はノートをとらなくなってしまう学生がいるということは今回はじめて気づいた点でした。

●　授業者について

説明は明瞭であり，声は教室の後ろまで良く聞こえていました。板書も見やすく，板書のスピードも速すぎず，説明をはじめるまでの時間なども十分であると感じられました。適宜，学生に質問されていて，双方向の授業を実践されていました。

●　授業全体について

授業内容は「磁気モーメントの発生原因」についてであり，電子の軌道運動や電子のスピンについて講義をされていました。講義のテンポが良く，分かりやすい説明をされている点が非常に参考になりました。

講義の中で，角運動量についてその向きは「右ネジと同じ」という説明をされていましたが，「なぜそうなるのか？」という理由を説明された方が良いのではと思いながら聞いていました。疑問点があった場合，それを考えているうちは次の説明が耳に入らなくなると思います。その後，学生からこのことについて質問が出て，ベクトルの外積の関係からその理由を説明され，学生達も納得したようでしたが，授業の流れの中では，はじめから理由を説明された方が理解しやすいと思いました。

授業を通じて感じたことは，学生達の電磁気学に対する知識のなさでした。クーロン引力，フレミングの左手の法則，右ネジの法則などの基本事項を覚えていない学生が多数いました。そのため，電磁気学の復習に多くの時間が割かれ，電子材料工学として教えたい内容が十分には説明できないのではと心配になりました。低学年で電気回路の基礎を教えている者にとっては，自分の立場を改めて認識する良い機会となりましたが，石井先生は相当なご苦労をされていることが良く分かりました。

公開授業自己評価報告用紙（A4）

公開授業　自己評価報告書	
授業公開者	**石井 良博**
公開日時	**平成 18 年 11 月２日　木曜日　　3,4 講目**
学科　学年 **科目名**	**第４学年　電気電子工学科** **「電子材料工学」**
授業参観者	**柳谷先生**

●授業の自己評価

このクラスは，成績が２極化しており，下位の学生は理解を諦めているようにも思える。そのような学生は何も考えず，質問もせずに，ただひたすらノートを取るか，ぼーっとしているように見える。

授業では，理解度を確認しながら，できるだけ基礎的なところ（主に電磁気学と物理）まで立ち戻ることによって，授業の中で考えさせ，理解をさせるようにと努力している。最近になって，ようやく下位の学生からも質問が出るようになった。

この科目は，在外研究の山田先生のピンチヒッターで，今年限りの担当である。この日の授業は，準備が不十分で私自身に余裕がなかった。そのために，先に教えるべきことを後で追加したり，学生から質問を受けてから教える場面もあった。柳谷先生からのご指摘の通り学生の理解が滞ったり，混乱した可能性もある。

●授業観察報告書を受けて

クラス全体に注意を払っている積もりでしたが，一番後（特に窓側）は陰になって気がつくのが随分遅れました。起こした後にもノートを取っていなかったことには気がつきませんでした。これからは，学生の様子にもっと注意を払うように致します。

角運動量や角速度，トルクなど，回転に伴うベクトルの方向については，これらのベクトルと回転の向きが右ねじの関係にあることを説明するだけで十分と考えていましたが，学生から理由の説明を求められ，さらに柳谷先生も理由を先に教えるべきであると考えられていたとのことで，「目から鱗」の感を受けました。

学生達の電気磁気学に対する知識の欠如は，私の想像以上でした。基礎が身についていないことから，考えずに暗記する勉強法に繋がったとも考えられます。この授業を通して，少しでも電磁気学の知識を補充し，物事を基礎から考えることを学ばせたいと思っています。

（出典　教務委員会ＦＤワーキンググループ資料　学内専用ウェブサイトに掲載）

（分析結果とその根拠理由）

各教員が授業理解アンケート調査，授業公開，授業観察を実施しており，教育改善のための努力がなされている。さらに各年度の各教員の教育研究活動を本校独自の教育研究業績調査用紙にまとめたものを校長に提出し評価を受けている。教員の評価・顕彰に関しては，教員の教育，研究，学生指導，管理運営，地域貢献等の業績について表彰を行う制度が定められている。これに基づいて平成17年度から前年度の業績に対して顕彰を実施している。また，機構による顕彰制度にも積極的に参画し，これまで３名の教員が受賞した実績がある。

観点３－３－①：　学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

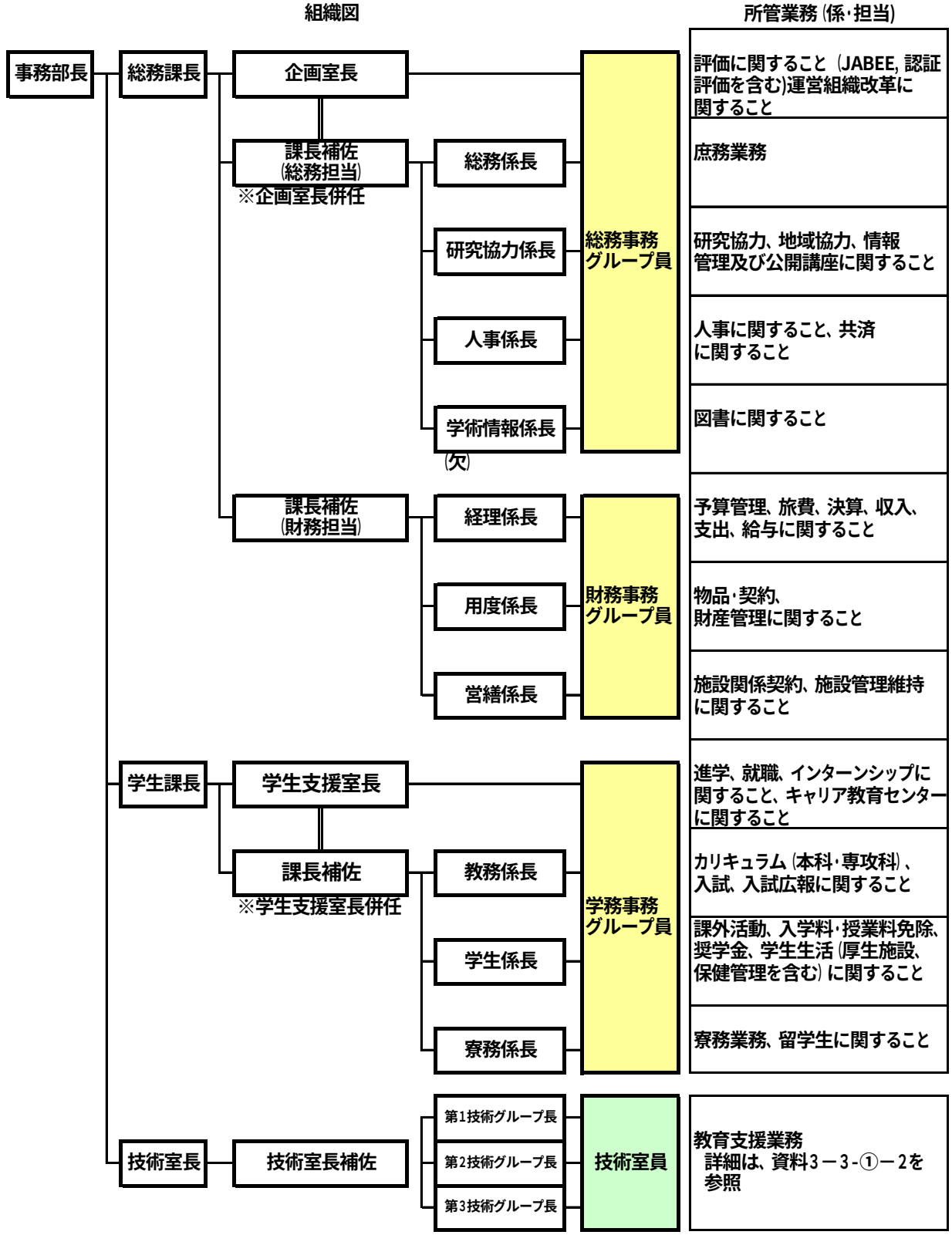
学校において編成された教育課程を展開するために必要な教育支援者として事務部があり，事務職員30名，技術職員が16名配置されている（資料３- ３- ①- １，２）。

事務組織に関しては，平成18年４月から，高専の管理部門である庶務課と会計課をより効率的な管理運営体制を構築するために総務課として統合し，総務課と学生課の２課体制となっており，定期的に課長および係長連絡会議が開催されるなどの連携体制をとっている。また，各種委員会等の大部分には関係する事務職員も参加しており，教員組織と事務部の連携も図られている。

技術職員組織に関しては技術室が設置されており，第一（機械工学系），第二（電気電子工学系・情報工学系），第三（物質工学系・環境都市工学系）技術グループで構成されている。技術室では，教育活動について技術面での支援を行うとともに組織的・計画的な研修体制（資料３－３－①－３）をとっており，学外研修会（資料３－３－①－４）および学内研修会（資料３－３－①－５）等を通じて資質の向上にも努めている。平成18年度には博士号を取得した技術職員の実績もある。教育研究に対して積極的な姿勢を持つ技術職員が適切に配置されることによって，実践的技術者の育成を目的に編成された教育課程がより有効に展開されている。

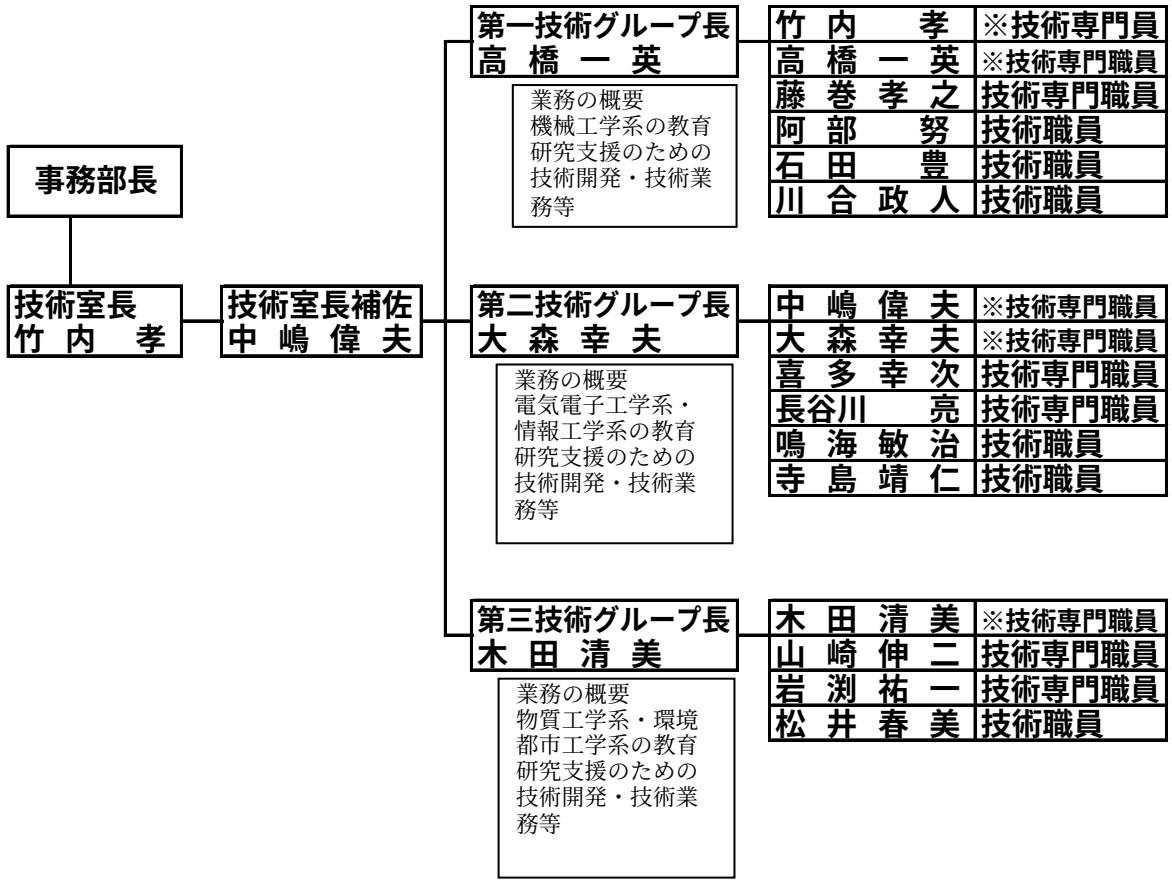
資料３－３－①－１

事務職員の配置と業務　　平成１９年4月1日現在



（出典　事務部資料）

資料３－３－①－２


事務部長
技術室長
竹内　孝
技術室長補佐
中嶋偉夫
第一技術グループ長
高橋一英
業務の概要
機械工学系の教育
研究支援のための
技術開発・技術業
務等
竹内　孝　※技術専門員
高橋一英　※技術専門職員
藤巻孝之　技術専門職員
阿部　努　技術職員
石田　豊　技術職員
川合政人　技術職員
第二技術グループ長
大森幸夫
業務の概要
電気電子工学系・
情報工学系の教育
研究支援のための
技術開発・技術業
務等
中嶋偉夫　※技術専門職員
大森幸夫　※技術専門職員
喜多幸次　技術専門職員
長谷川　亮　技術専門職員
鳴海敏治　技術職員
寺島靖仁　技術職員
第三技術グループ長
木田清美
業務の概要
物質工学系・環境
都市工学系の教育
研究支援のための
技術開発・技術業
務等
木田清美　※技術専門職員
山崎伸二　技術専門職員
岩渕祐一　技術専門職員
松井春美　技術職員

技術室職員業務表

職員	所属および関連学科	主な専門分野	主な教育支援業務	学内共同施設、共通業務支援
竹内　孝	技術室長 機械工学科	工作、材料、精密	5学年工学実験、　4学年工学実験、　卒業研究実験、創造演習Ⅰ、　創造演習Ⅱ･Ⅲ	電子顕微鏡室 (維持管理、技術指導) 専攻科特別実験
中嶋　偉夫	技術室長補佐 一般科目物理	一般物理	第2学年（5学科）一般物理実験、4学年情報応用物理実験、1学年基礎情報処理（5学科）	基礎情報処理室
川合　政人	第一技術G 機械工学科	熱機関、電気計測 CAD設計	5学年工学実験、　4学年工学実験、　卒業研究実験、2年学年CAD設計、　2学年情報処理演習、創造演習Ⅰ、　創造演習Ⅱ･Ⅲ	創造工房（維持管理･技術指導）、 専攻科特別実験
高橋　一英	第一技術G長 実習工場	鋳造、板金 溶接、X線検査	3学年工作実習、　2学年工作実習、　1学年工作実習、創造演習Ⅱ･Ⅲ、　工作実習（電気電子工学科）	実習工場運営委員会、　学内製作依頼業務
藤巻　孝之	第一技術G 実習工場担当責任者 実習工場	仕上げ加工、 フライス加工 5軸マシニング加工	3学年工作実習、　2学年工作実習、　1学年工作実習、創造演習Ⅱ･Ⅲ、　工作実習（電気電子工学科）	実習工場運営委員会、学内製作依頼業務
阿部　努	第一技術G 実習工場	汎用旋盤加工、 CNC旋盤加工	3学年工作実習、　2学年工作実習、　1学年工作実習、創造演習Ⅰ、創造演習Ⅱ･Ⅲ、工作実習（電気電子工学科）	実習工場運営委員会、　学内製作依頼業務
石田　豊	第一技術G 実習工場	CAD/CAM加工、 X線検査　NC加工（マシニングセンター）、ワイヤー放電加工	3学年工作実習、　2学年工作実習、　1学年工作実習、創造演習Ⅱ･Ⅲ、　工作実習（電気電子工学科）	実習工場運営委員会、学内製作依頼業務、専攻科特別実験
大森　幸夫	第二技術G長 電気電子工学科	電気（強電）	ネットワーク管理室維持管理、共同情報演習室維持管理、無線LAN	ネットワーク管理室、情報処理演習　3室
喜多　幸次	第二技術G 電気電子工学科	電気（弱電）	1、2、3学年プログラミング　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、 2学年工学基礎実験Ⅰ、　5学年工学応用実験Ⅱ	
長谷川　亮	第二技術G 電気電子工学科	電気（弱電）	1、2、3学年プログラミング　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、　3学年工学基礎実験Ⅱ、　4学年工学応用実験Ⅰ、4学年創造実験	
鳴海　敏治	第二技術G 情報工学科	情報処理	1、2、3学年プログラミング　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、　3学年工学実験、4学年工学実験、　5学年工学実験	
寺島　靖仁	第二技術G 情報工学科	情報処理	1、2、3学年プログラミングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、　3学年工学実験、3学年基礎実験、　4学年工学実験、　5学年工学実験、2、4学年コンピュータアーキテクチャ	
木田　清美	第三技術G長 環境都市工学科	衛生工学、水理学	4学年工学実験、　5学年工学実験、　卒業研究	専攻科特別実験
岩渕　祐一	第三技術G 環境都市工学科	土質工学 道路工学	4学年工学実験、　5学年工学実験、　卒業研究	専攻科特別実験
山崎　伸二	第三技術G 物質工学科	化学	1年基礎化学実験、　2年一般化学実験（4学科）、 2年工学実験Ⅰ、　2学年創造演習、　3学年情報処理Ⅰ、　4学年　機器分析	
松井　春美 博士（システム情報科学）	第三技術G 物質工学科	化学	1年基礎化学実験、　2年一般化学実験（4学科）、 3年工学実験Ⅱ、　4年機器分析	専攻科特別実験

（出典　事務部資料）

資料３－３－①－３

技術室職員の研修体制

○　技術室職員の主な研修体制

1.　高等専門学校機構主催の技術職員特別研修会
2.　北海道地区国立大学法人等主催の技術職員研修
3.　全国の各機関で行われる技術研究会
4.　人事院主催の初任者および中堅職員研修
5.　各種技能講習や資格講習および労働安全講習
6.　学内の内部研修会

○　平成 18 年度の実施

１）独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校
技術職員特別研修会（物質系）
平成 18 年 8 月 22 日～24 日
長岡技術科学大学　　参加者：　第 3 技術グループ　松井春美　技術職員（　口頭発表　）

２）北海道地区国立大學法人等技術職員研修（機械・土木・建築　分野）
平成 18 年９月 13 日～15 日
北海道大学　　参加者：　第１技術グループ　高橋一英　技術専門職員（ポスター発表）
第３技術グループ　岩渕祐一　技術専門職員（ポスター発表）

３）平成１８年度　機器・分析技術研究会
平成 18 年 9 月 14 日～15 日
広島大学東広島キャンパス　　参加者：　第 3 技術グループ　松井春美　技術職員（　口頭発表　）

４）名古屋大学総合技術研究会
平成 19 年 3 月 1～2 日
名古屋大学　　参加者：　第 2 技術グループ　長谷川　亮　技術専門職員（聴講参加）

５）平成 18 年度　函館工業高等専門学校　技術室職員研修
平成 18 年 9 月 28 日～9 月 29 日
函館工業高等専門学校　技術室・環境都市工学科実験室　　参加者：　技術室職員全員

○　平成 19 年度の実施予定

１）独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校
技術職員特別研修会（建設・環境系）
平成 19 年 8 月 21 日～23 日
長岡技術科学大学　　参加者：　第 3 技術グループ　岩渕祐一　技術専門職員（　口頭発表　）

２）**北海道地区国立大學法人等技術職員研修**（生物・生命科学・物理・化学　分野）
平成 19 年 7 月 18 日～20 日
北海道大学　　参加者：　第３技術グループ　山崎伸二　技術専門職員
第３技術グループ　松井春美　技術職員（ポスター発表）

３）**平成 19 年度　機器・分析技術研究会**
平成 19 年 8 月 23 日～24 日
富山大学　五福キャンパス　　参加者：　第１技術グループ　石田　豊　技術職員（　口頭発表　）

4）**実験・実習技術研究会**
平成 20 年 3 月 6～7 日
徳島大学　工学部　　参加者：　未定

5）**平成 19 年度　函館工業高等専門学校　技術室職員研修**
日程：　未定
函館工業高等専門学校　　参加者：　技術室職員全員

６）**平成 19 年度　北海道地区中堅係員研修**
平成 19 年 6 月 19 日～22 日
札幌（人事院）　　参加者：　第２技術グループ　寺島靖人　技術職員

（出典　技術室資料）

資料３－３－①－４

平成１８年度　独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校
技術職員特別研修会研究開発技術等の概要

学　校　名	函館工業高等専門学校		NO．１
氏　　名	松井　春美	職　名	技術職員
研究開発技術等の題名	在庫管理についての基礎研究		

「目的」

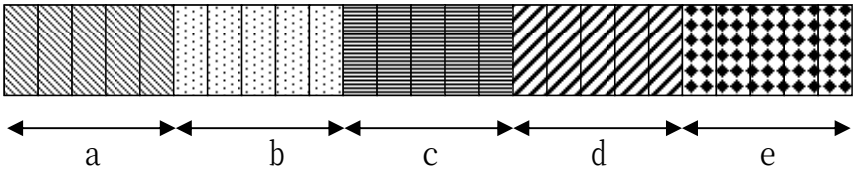
近年，在庫管理を効率的に行うことの必要性がますます高くなってきていると考えられる。その理由として，①実験器具の保管スペースが限られること，②実験テーマの増減による実験器具の円滑な運用が必要であること，③年々実験実習費の削減が顕著になってきていることなどが挙げられる。そこで，現在の器具の保管量から器具の購入計画を立案することができる手法の確立を目的とした。

「方法」

1．次のようなテストデータを作成した。

器具名	単価（円）	現在数	必要数
a	500	3	5
b	400	2	3
c	50	8	10
d	600	1	1
e	300	1	1

2．器具購入の計画立案には，組み合わせ探索に適した遺伝的アルゴリズムを適用した。器具の数量を各々5 ビットで表し，評価は①購入優先順位（a>b>c>d>e）の高いものがより多く，②予算を最大限に活用できている組み合わせを探索した。



ＮＯ．２

学校名	函館工業高等専門学校	氏　名　松井　春美

「結果」

以下のような条件で，遺伝的アルゴリズムを用いて探索を行った。

個体数	10
交叉方法	一点交叉
交叉確率	0.8
突然変異方法	ビット反転
突然変異確率	0.05
世代数	1000

予算を 10,000 円としたとき，以下のような組み合わせが提示された。

No.	器具の個数（個）					合計（円）
	a	b	c	d	e	
1	19	1	2	0	0	10,000
2	7	8	12	0	9	10,000
3	7	4	2	8	0	10,000
4	10	1	19	6	0	9,950
5	3	17	21	0	2	9,950

予算を最大限活用できるような購入計画を立てることができた。

「今後の課題」

優先順位を設定すると，No.1 の組み合わせのように，特定の器具に偏った提案がなされる可能性が高い。実用化する際には，この点を解決するために，あらかじめ確保しておきたい予備数を加味して，必要数を設定しなければならないと考えられる。

また，より破損しやすい器具を統計的に調査して優先順位を設定すると，より実用的なものになるのではないかと考えられる。

機　器　等　の　使　用　の　有　無	㊒（プロジェクター　　）・無

（出典　平成１８年度　独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会研究開発技術等の概要）

資料３－３－①－５

平成 18 年度　函館工業高等専門学校技術室職員研修実施要項

１．　名　　称

函館工業高等専門学校技術室職員研修

２．　目　　的

この研修は，技術室職員が相互の啓発を以って，職務遂行に必要な新たな一般的知識及び技術の習得を図るとともに，より多くの教示を求め，資質の向上を資することを目的とする。

３．　主　　催

函館工業高等専門学校　技術室

４．　期　　間

平成１８年９月２８日（木）～平成１８年９月２９日（金）

５．　研修会場

函館工業高等専門学校
　技術室
　環境都市工学科　土質実験室Ａ
　環境都市工学科　水理実験室

６．　受 講 者

函館工業高等専門学校技術室職員

７．　研修内容

別紙日程表のとおり

８．　講　　師

函館工業高等専門学校教職員とする。ただし，必要に応じ学外者を講師とすることができる。

９．　庶　　務

本研修に関する庶務は，事務部の協力を得て技術室において処理する。

平成 18 年度　函館工業高等専門学校技術室職員研修

受　講　者　名　簿

番号	所　　属	氏　　名
1	技　術　室　長	竹　内　　孝
2	技術室長補佐	中　嶋　偉　夫
3	第一技術グループ	高　橋　一　英
4	〃	藤　巻　孝　之
5	〃	石　田　　豊
6	〃	阿　部　　努
7	〃	川　合　政　人
8	第二技術グループ	大　森　幸　夫
9	〃	喜　多　幸　次
10	〃	長谷川　　亮
11	〃	鳴　海　敏　治
12	〃	寺　島　靖　仁
13	第三技術グループ	木　田　清　美
14	〃	山　崎　伸　二
15	〃	岩　渕　祐　一
16	〃	松　井　春　美

平成１８年度　函館工業高等専門学校技術室職員研修　日程表

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
第一日目 9月28日 (木)	受　付 開講式 日程説明	講　演 「室内土質試験の最近の話題と高専での土質工学教育」 環境都市工学科 助教授　川口　貴之	休憩	講　演 「鋼構造に関する最新の話題」 環境都市工学科 助教授　平沢　秀之	休　憩	実技実習（Ⅰ） 「土の粒度試験」 実技指導 技術専門職員 岩渕　祐一 実習指導担当 第三技術G職員			
第二日目 9月29日 (金)	実技実習（Ⅱ） 「活性汚泥の浄化反応」 実技指導 技術専門職員 木田　清美 実習指導担当 第三技術G職員				休　憩	実技実習（Ⅰ）・解析 「実習　Ⅰ・Ⅱのデーター解析」 実技指導 技術専門職員 木田　清美・岩渕　祐一 実習指導担当 第三技術G職員			閉講式

研修会場：
- ○開講式･講演　技術室
- ○実技実習（Ⅰ）　環境都市工学科 土質実験室A（実験棟西1F）
- ○実技実習（Ⅱ）　環境都市工学科 水理実験室　（実験棟西1F）
- ○実習データー解析･閉講式　技術室

（出典　技術室資料）

（分析結果とその根拠理由）

事務部には事務職員，技術職員が適切に配置されている。事務職員は関係する各種委員会等にも参加し，教員組織と事務部の連携が図られている。また，技術職員は教育活動について技術面で支援を行うとともに，研究会等を通じ，資質の向上に努めており，実践的技術者の育成を目的に編成された教育課程がより有効に展開されている。これらのことから，学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・校長は，各教員から提出された学内教育研究業績調査表により，個々の教員の現状や意見を把握することができ，また，改善すべき点の指摘や改善の指示を適切に伝えることができる。

・学内教員顕彰制度の実施により，各年度において教育貢献，地域貢献，研究活動，管理運営のいずれかの分野で顕著な業績を上げることにより，表彰を受けるとともに教育研究費にインセンティブが付与され，適切な評価が教員の教育活動の励みとなっている。

・専門５学科の専任教員の中で，博士の学位取得者が占める割合は７割を超えており，一般科目においては修士以上の学位取得率が８割に達していることから，教育目的を達成するために十分な能力をもつ教員が配置されている。また，民間企業で技術者としての３年以上の実務経験を持つ者が17名（専門学科教員の３割），さらに技術士資格者が２名，技術士補資格者が１名おり，実務経験に基づいた実践的な教育を実施できる人的資源がある。

・技術室には16名の技術職員が配置され，専門分野ごとにグループ分けされており，教育支援のための技術業務，技術指導を行っている。本校の技術職員数は，全職員数の３割を超えており，１学科あたりでは２～３名になることから，教育への技術支援体制が十分であることを示している。また，平成18年度には技術職員１名が博士号を取得するなど，資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

本校は１学年５学級である。一般科目においては，専任教員24名（教員交流制度による派遣専任教員１名を含まない），非常勤講師29名が配置されており，設置基準を満たしている。それぞれの専門分野を考慮し，教育目標を効果的に達成しうる配置となっている。

専門科目においては，専任教員55名（助手１名除く），再雇用教員１名，非常勤講師１名が配置されており，設置基準を満たしている。修士または博士の学位を取得した教員を中心に，各専門学科に企業経験のある教員を３名以上配置し，深く専門的知識，実践的技術を教授できる教育体制をとっており，本校の教育目標を効果的に達成しうる配置となっている。

専攻科では生産システム工学専攻および環境システム工学専攻の２専攻を設置している。専攻科の一般科目については，修士以上の学位を取得している教員を中心とし，専攻科の専門科目については，博士の学位を有する教員を中心として配置されている。また，特別研究の指導に関しては，博士の学位を有するか，または十分な研究実績を持つ教員を指導教員としており，教育目標を効果的に達成しうる配置となっている。

本校の教育目標を達成するため，教員の公募の際には，研究，教育，実務経験，年齢等を考慮し，採用を行っており，均衡のとれた年齢構成となっている。学位の取得については，内地研究員制度の利用や他大学の大学院での学位取得機会の付与などによって奨励しており，教育研究活動をより活性化するための適切な措置がとられている。

教員の採用・昇格にあたっては必ず公募を行い，教員選考委員会で厳正な審議が行われた後，校長が決定することとなっている。専門科目（一般科目(理科)を含む）担当教員については博士の学位取得者，また，一般科目(理科を除く)担当教員については修士の学位取得者，またはこれと同等以上の教育研究能力を持つ者と規定され，明確かつ適切に定められ，適切に運用されている。

教員の評価・顕彰に関しては平成17年度から毎年度，実施しており，高専教員としての活動の活発化が図られている。さらに各年度の各教員の教育研究活動を本校独自の教育研究業績調査用紙にまとめたものを校長に提出し，評価を受けている。

総務課，学生課に合計30名の事務職員が配置され，教育支援体制を適切に行う体制となっている。また，技術室に16名の技術職員が適切に配置されており，技術面での教育支援を行うとともに，自主研鑽に努めている。